

龍ヶ崎市立小中学校適正規模適正配置審議会資料

平成21年7月

目 次

1 龍ヶ崎市立小中学校の少子化の現状と課題	1
2 各小学校の状況	
小学校区別地域区分図・学級数別学校数の推移	2
(1) 龍ヶ崎小学校区	3～4
(2) 龍ヶ崎西小学校区	5～6
(3) 大宮小学校区	7～8
(4) 馴柴小学校区	9～10
(5) 川原代小学校区	11～12
(6) 北文間小学校区	13～14
(7) 松葉小学校区	15～16
(8) 長山小学校区	17～18
(9) 久保台小学校区	19～20
(10) 馴馬台小学校区	21～22
(11) 八原小学校区	23～24
(12) 城ノ内小学校区	25～26
(13) 長戸小学校区	27～28
児童・学級数一覧(平成21年5月1日現在)	29
3 各中学校の状況	
中学校区別地域区分図・学級数別学校数の推移	30
(1) 愛宕中学校区	31～32
(2) 城南中学校区	33～34
(3) 城西中学校区	35～36
(4) 長山中学校区	37～38
(5) 中根台中学校区	39～40
(6) 城ノ内中学校区	41～42
生徒・学級数一覧(平成21年5月1日現在)	43
4 学校の適正規模化の必要性	
小規模校のメリットとデメリット	44～46
5 龍ヶ崎市立小中学校施設の現状	47
6 別添資料	
各小中学校別児童生徒数の推移と将来推計	48～67
公立・小中学校規模の標準に関する国・県の基準等について	68

1 龍ヶ崎市立小中学校の少子化の現状と課題

当市の児童生徒数の推移を昭和50年度から見た場合、小学校の児童数は、平成8年度の5,571人をピークに、中学校の生徒数は、平成11年度の3,043人をピークに減少傾向が続いています。また、平成21年度には、小学校の児童数が4,836人、中学校の生徒数は、2,430人となっており、それぞれピーク時に比べ、児童数は、約87%、生徒数は、約80%となっています。

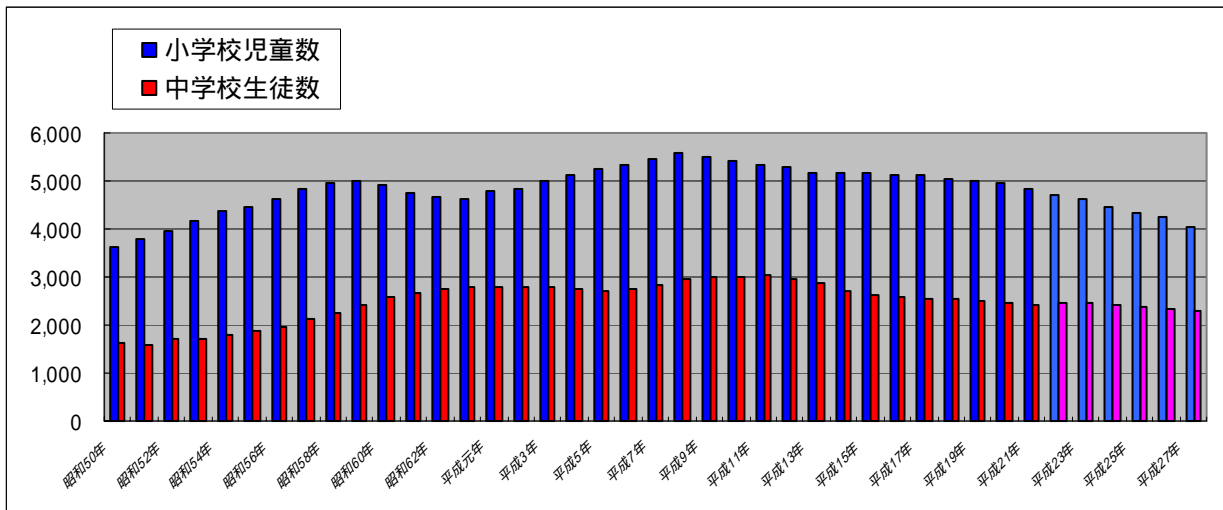
龍ヶ崎ニュータウン龍ヶ岡地区にある八原小学校、城ノ内小学校及び城ノ内中学校では、宅地開発に伴い現在も児童生徒数が増加していることから、市内全体として児童生徒数を捉えた場合には、減少傾向は、さほど目立ったものにはなっていません。

しかし、学校毎に見た場合には、市内19校のうち7つの小中学校で平成21年度の児童生徒数がピーク時と比べて50%未満となっており、さらに全校児童数が100人未満となっている小学校も出始めています。また、昭和55年から初期分譲が開始された龍ヶ崎ニュータウン北竜台地区も現在は、龍ヶ岡地区を除く他の地域と同様に少子化が確実に進んでいます。

少子化による児童生徒数の減少に伴い4つの小学校（長戸小・北文間小・大宮小・川原代小）では、すべての学年が単学級となっています。こうした状況の中で、子どもたちの交友関係が固定化され、子ども同士で切磋琢磨する機会が少なくなることで、等により多様なものの見方や考え方が育ちにくくなるのが懸念されます。

【昭和50年度以降の児童生徒数の推移と将来推計】

平成22年度以降は、推計値。



各年5月1日現在の児童生徒数。平成20年度までは実数、平成21年度以降は推計値となる。

昭和57年4月、龍ヶ崎西小学校及び松葉小学校が開校。

昭和58年4月、長山中学校が開校。

昭和59年4月、城西中学校が開校。

平成元年4月、長山小学校が開校。

平成5年4月、馴馬台小学校が開校、併せて馴馬小学校が廃校となる。

平成7年4月、中根台中学校が開校。

平成8年4月、久保台小学校が開校。

平成11年4月、城ノ内中学校が開校。

平成13年4月、城ノ内小学校が開校。

2 各小学校の状況

小学校区別地域区分図



【学級数別学校数の推移（小学校）】

学級数	5学級以下	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25学級以上	計
昭和50年度		3					2	1				1									1	8
平成元年度		2					1	5						1						1	1	11
平成10年度		1		1	1			2	1	1		1		2	1					1		12
平成20年度		4					1	4				1		1		1					1	13
平成25年度		4			2		2	1	1	1						1					1	13

学校規模の検討のため学級数は、普通学級数のみを記載。平成25年度については、推計値となる。

地域区分毎に市内小学校を見た場合の具体的な状況は、次のとおりです。

南部地域

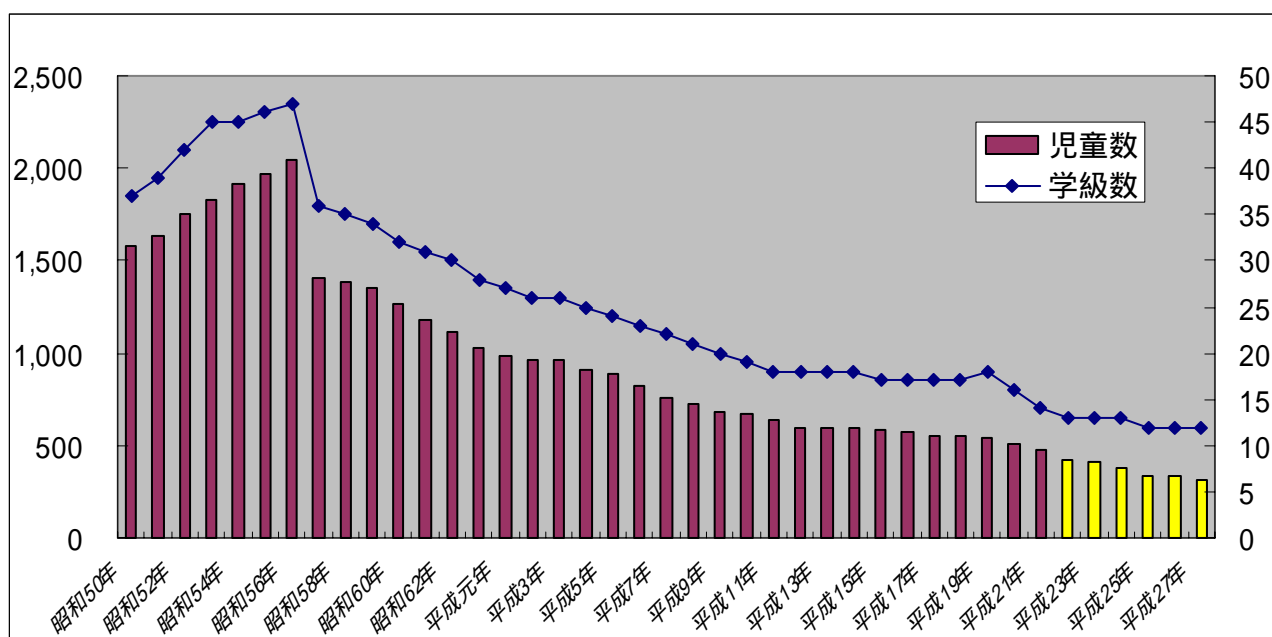
(1) 龍ヶ崎小学校区

昭和50年代、児童数は増加の一途をたどり、昭和56年度には、2,000人を超える状況となっていたことから、昭和57年4月、龍ヶ崎小学校の分離校として龍ヶ崎西小学校が新設されました。これにより、昭和57年度の龍ヶ崎小学校の児童数は、約1,400人(普通学級数36)となりましたが、それ以降は、減少傾向に転じ平成21年度には、約470人(普通学級数14)となっています。少子化により児童数は、今後も徐々に減少していくものと考えられます。

ピーク時の児童数等 (上段：児童数 下段：学級数)		平成21年度	ピーク時との比較
昭和57年度	1,410	473	33.5%
	36	14	38.9%

ピーク時の児童数等は、分離校(龍ヶ崎西小学校)新設後の最大児童数。学級数は、普通学級数を記載。

【昭和50年度以降の児童数の推移と将来推計】



各年5月1日現在の児童数。平成21年度までは実数、平成22年度以降は推計値となる。学級数は、学校規模の検討のため普通学級数を記載。

昭和57年4月、龍ヶ崎西小学校が開校。龍ヶ崎小学校の学区の一部(米町・水門の一部・姫宮町・新町・駒馬町上米)が龍ヶ崎西小学校の学区となる。

平成6年4月、龍ヶ崎小学校の学区の一部(高砂・直鮒)が龍ヶ崎西小学校の学区となる。

龍ヶ崎小学校の学区は、龍ヶ崎市街地が中心となっており、龍ヶ崎小学校からおおむね半径1.0km圏内にありますが、最も遠い富士見地区からの通学距離は、約2.0kmとなっています。また、進学する中学校は、愛宕中学校と城南中学校になっています。

平成20年度以降の学級数及び児童数

上段の()内は学級数, 下段は児童数。

学校名 龍ヶ崎小学校

年度/ 学年	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	普通学級 の計	特別支援 学級	合 計	備 考
20	(2) 65	(3) 99	(2) 75	(3) 85	(3) 87	(3) 91	(16) 502	(2) 5	(18) 507	普通学級数16、特別支援学級数2 H20.5.1現在、学校基本調査
21	(2) 67	(2) 64	(3) 95	(2) 72	(2) 80	(3) 88	(14) 466	(2) 7	(16) 473	普通学級数14、特別支援学級数2 H21.5.1現在、学校基本調査
22	(2) 56	(2) 64	(2) 61	(3) 92	(2) 69	(2) 77	(13) 419	(2) 7	(15) 426	普通学級数13 特別支援学級数2
23	(2) 74	(2) 54	(2) 62	(2) 59	(3) 90	(2) 67	(13) 406	(2) 7	(15) 413	普通学級数13 特別支援学級数2
24	(2) 49	(2) 72	(2) 52	(2) 59	(2) 56	(3) 87	(13) 375	(2) 7	(15) 382	普通学級数13 特別支援学級数2
25	(2) 48	(2) 46	(2) 70	(2) 49	(2) 57	(2) 54	(12) 324	(2) 7	(14) 331	普通学級数12 特別支援学級数2
26	(2) 67	(2) 45	(2) 44	(2) 67	(2) 47	(2) 55	(12) 325	(2) 7	(14) 332	普通学級数12 特別支援学級数2
27	(2) 49	(2) 64	(2) 43	(2) 42	(2) 65	(2) 45	(12) 308	(2) 7	(14) 315	普通学級数12 特別支援学級数2

平成21年度までは実数, 平成22年度以降は推計値となります。

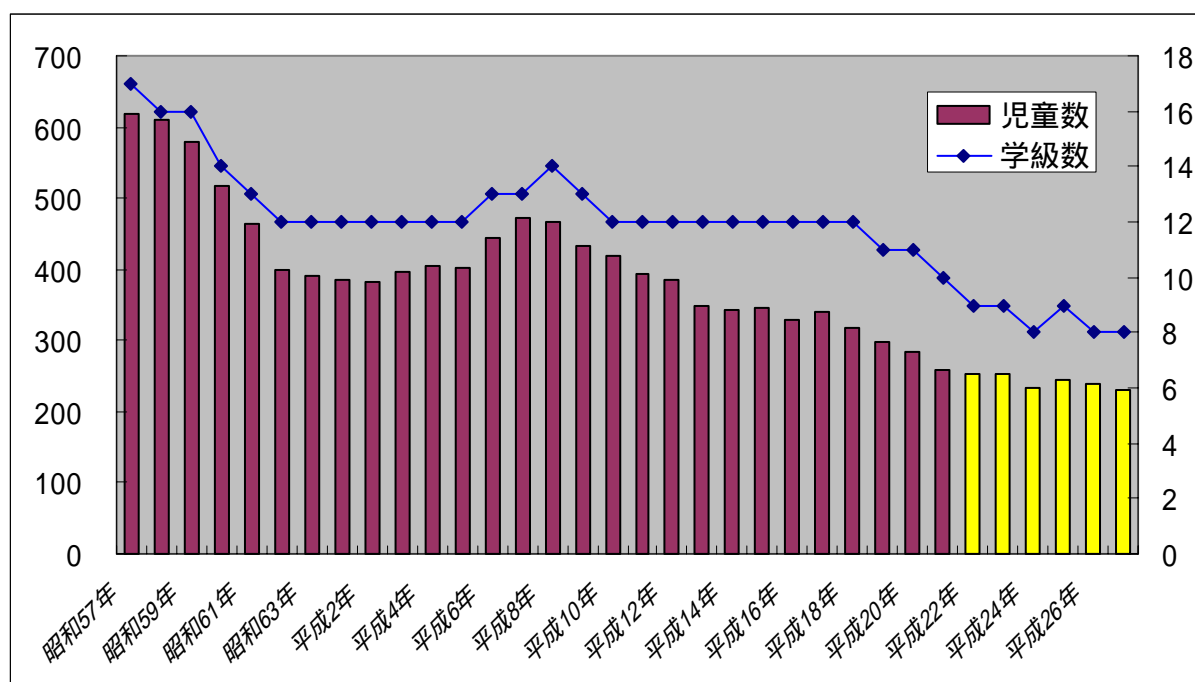
(2) 龍ヶ崎西小学校区

昭和57年4月、龍ヶ崎小学校の分離校として龍ヶ崎西小学校が新設されました。新設当時の児童数は、約600人(普通学級数17)でしたが、平成21年度には、260人(普通学級数10)となっています。少子化により今後の児童数は、龍ヶ崎小学校と同様に徐々に減少していくものと考えられます。

ピーク時の児童数等 (上段：児童数 下段：学級数)		平成21年度	ピーク時との比較
昭和57年度	619	260	42.0%
	17	10	58.8%

ピーク時の児童数等は、新設時(昭和57年度)以降の最大児童数。学級数は、普通学級数を記載。

【昭和50年度以降の児童数の推移と将来推計】



各年5月1日現在の児童数。平成21年度までは実数、平成22年度以降は推計値となる。学級数は、学校規模の検討のため普通学級数を記載。

平成6年4月、龍ヶ崎小学校の学区であった高砂、直鮎が龍ヶ崎西小学校の学区となる。

龍ヶ崎西小学校の学区は、龍ヶ崎市街地が中心となっており、龍ヶ崎西小学校からおおむね半径1.0km圏内にありますが、最も遠い高砂、直鮎地区からの通学距離でも、1.3km程度となっています。小学校卒業後、ほとんどの児童が愛宕中学校に進学していますが、高砂・直鮎地区については、城南中学校が指定校になっています。

平成20年度以降の学級数及び児童数

上段の()内は学級数, 下段は児童数。

学校名 龍ヶ崎西小学校

年度 / 学年	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	普通学級の計	特別支援学級	合計	備考
20	(2) 43	(1) 37	(2) 49	(2) 46	(2) 43	(2) 58	(11) 276	(3) 7	(14) 283	普通学級数11、特別支援学級数3 H20.5.1現在、学校基本調査
21	(1) 38	(2) 42	(1) 39	(2) 48	(2) 46	(2) 43	(10) 256	(3) 4	(13) 260	普通学級数10、特別支援学級数3 H21.5.1現在、学校基本調査
22	(1) 35	(1) 38	(2) 42	(1) 39	(2) 48	(2) 46	(9) 248	(3) 4	(12) 252	普通学級数9 特別支援学級数3
23	(2) 48	(1) 35	(1) 38	(2) 42	(1) 39	(2) 48	(9) 250	(3) 4	(12) 254	普通学級数9 特別支援学級数3
24	(1) 27	(2) 48	(1) 35	(1) 38	(2) 42	(1) 39	(8) 229	(3) 4	(11) 233	普通学級数8 特別支援学級数3
25	(2) 52	(1) 27	(2) 47	(1) 35	(1) 38	(2) 42	(9) 241	(3) 4	(12) 245	普通学級数9 特別支援学級数3
26	(1) 37	(2) 52	(1) 27	(2) 47	(1) 35	(1) 38	(8) 236	(3) 4	(11) 240	普通学級数8 特別支援学級数3
27	(1) 29	(1) 37	(2) 52	(1) 27	(2) 47	(1) 35	(8) 227	(3) 4	(11) 231	普通学級数8 特別支援学級数3

平成21年度までは実数, 平成22年度以降は推計値となります。

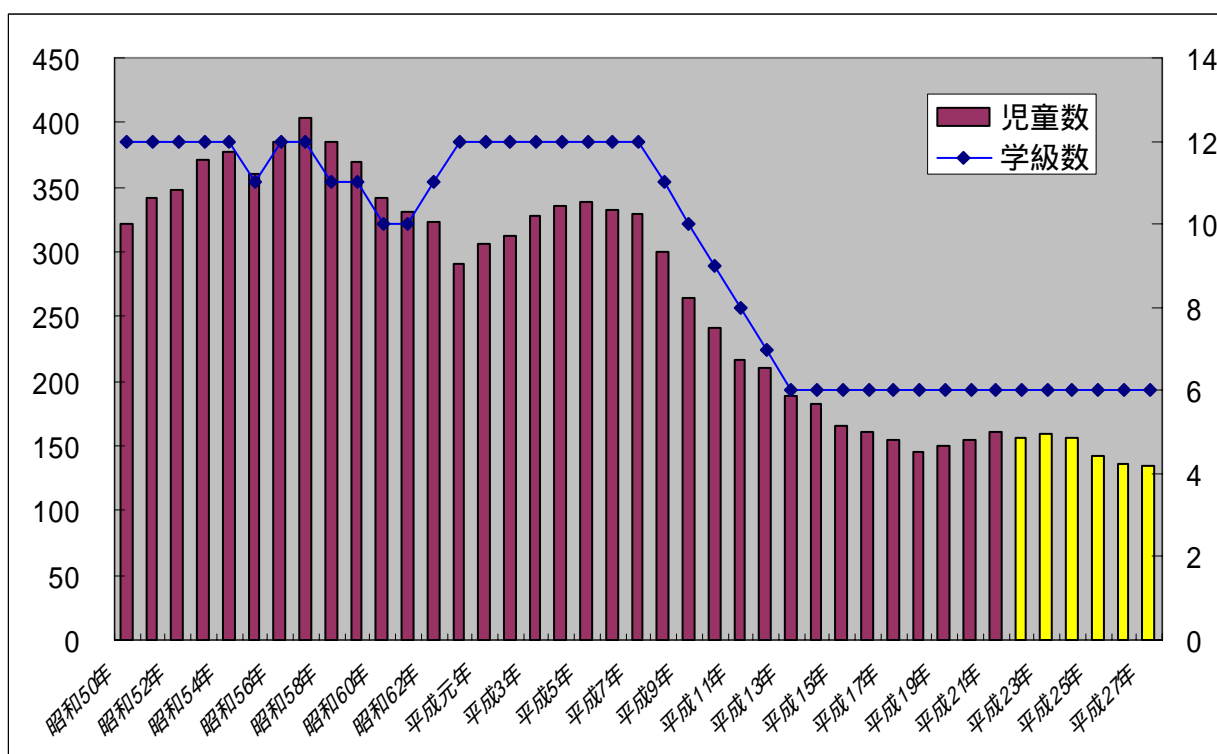
(3) 大宮小学校区

昭和57年度の児童数は、約400人(普通学級数12)でしたが、それ以降は、平成5年度の約340人(普通学級数12)をピークに減少傾向に転じ、平成21年度には、約160人(普通学級数6クラス)となっています。少子化により児童数は、今後も徐々に減少していくものと考えられます。

ピーク時の児童数等 (上段：児童数 下段：学級数)		平成21年度	ピーク時との比較
昭和57年度	404	161	39.9%
	12	6	50.0%

ピーク時の児童数等は、昭和50年度以降の最大児童数。学級数は、普通学級数を記載。

【昭和50年度以降の児童数の推移と将来推計】



各年5月1日現在の児童数。平成21年度までは実数、平成22年度以降は推計値となる。学級数は、学校規模の検討のため普通学級数を記載。

通学区域は、大宮小学校からおおむね半径1.5km圏内にありますが、最も遠い北河原地区からの通学距離は、約3.1kmとなっています。また、進学する中学校は、城南中学校になっています。

平成20年度以降の学級数及び児童数

上段の()内は学級数, 下段は児童数。

学校名 大宮小学校

年度/ 学年	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	普通学級 の計	特別支援 学級	合 計	備 考
20	(1) 23	(1) 30	(1) 26	(1) 22	(1) 30	(1) 19	(6) 150	(2) 5	(8) 155	普通学級数6、特別支援学級数2 H20.5.1現在、学校基本調査
21	(1) 24	(1) 22	(1) 31	(1) 27	(1) 22	(1) 29	(6) 155	(2) 6	(8) 161	普通学級数6、特別支援学級数2 H21.5.1現在、学校基本調査
22	(1) 24	(1) 24	(1) 22	(1) 31	(1) 27	(1) 22	(6) 150	(2) 6	(8) 156	普通学級数6 特別支援学級数2
23	(1) 25	(1) 24	(1) 24	(1) 22	(1) 31	(1) 27	(6) 153	(2) 6	(8) 159	普通学級数6 特別支援学級数2
24	(1) 24	(1) 25	(1) 24	(1) 24	(1) 22	(1) 31	(6) 150	(2) 6	(8) 156	普通学級数6 特別支援学級数2
25	(1) 17	(1) 24	(1) 25	(1) 24	(1) 24	(1) 22	(6) 136	(2) 6	(8) 142	普通学級数6 特別支援学級数2
26	(1) 16	(1) 17	(1) 24	(1) 25	(1) 24	(1) 24	(6) 130	(2) 6	(8) 136	普通学級数6 特別支援学級数2
27	(1) 23	(1) 16	(1) 17	(1) 24	(1) 25	(1) 24	(6) 129	(2) 6	(8) 135	普通学級数6 特別支援学級数2

平成21年度までは実数, 平成22年度以降は推計値となります。

西部地域

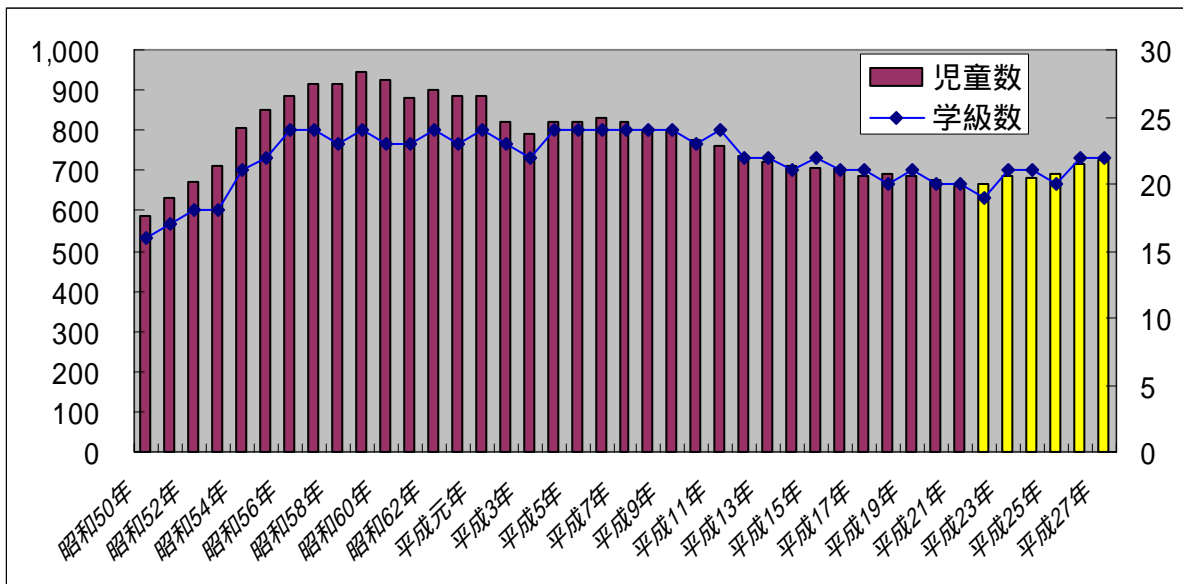
(4) 馴柴小学校区

J R 常磐線佐貫駅周辺においては土地区画整理事業等による基盤整理が行われ、昭和59年度の児童数は、約950人(普通学級数24)となりましたが、平成21年度には、約660人(普通学級数20)となっています。また、馴柴小学校の学区は、主要地方道龍ヶ崎潮来線により馴柴小学校と川原代小学校とに分かれているため、近年、馴柴小学校に近接している川原代小学校学区からの指定学校変更児童が多く在籍しています。

ピーク時の児童数等 (上段：児童数 下段：学級数)		平成21年度	ピーク時との比較
昭和59年度	947	664	70.1%
	24	20	83.3%

ピーク時の児童数等は、昭和50年度以降の最大児童数。学級数は、普通学級数を記載。

【昭和50年度以降の児童数の推移と将来推計】



各年5月1日現在の児童数。平成21年度までは実数、平成22年度以降は推計値となる。学級数は、学校規模の検討のため普通学級数を記載。

平成8年4月、馴柴小学校の学区であった稲荷新田町が馴馬台小学校の学区となる。

馴柴小学校の学区は、佐貫市街地が中心となっており、最も遠い若柴地区(星宮神社付近)や庄兵衛新田町地区からの通学距離は、約1.8kmとなっています。また、進学する中学校は、城西中学校となっています。

平成20年度以降の学級数及び児童数

上段の()内は学級数，下段は児童数。

学校名

馴柴小学校

年度/ 学年	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	普通学級 の計	特別支援 学級	合 計	備 考
20	(4) 109	(3) 98	(3) 118	(3) 103	(3) 119	(4) 126	(20) 673	(2) 6	(22) 679	普通学級数20、特別支援学級数2 H20.5.1現在、学校基本調査
21	(3) 104	(4) 109	(3) 99	(3) 119	(3) 106	(4) 121	(20) 658	(2) 6	(22) 664	普通学級数20、特別支援学級数2 H21.5.1現在、学校基本調査
22	(4) 121	(3) 105	(3) 110	(3) 100	(3) 120	(3) 107	(19) 663	(2) 6	(21) 669	普通学級数19 特別支援学級数2
23	(4) 117	(4) 123	(3) 106	(3) 111	(3) 101	(4) 121	(21) 679	(2) 6	(23) 685	普通学級数21 特別支援学級数2
24	(4) 112	(4) 118	(4) 124	(3) 108	(3) 113	(3) 103	(21) 678	(2) 6	(23) 684	普通学級数21 特別支援学級数2
25	(3) 106	(4) 113	(3) 120	(4) 125	(3) 109	(3) 114	(20) 687	(2) 6	(22) 693	普通学級数20 特別支援学級数2
26	(4) 132	(4) 108	(3) 114	(4) 121	(4) 127	(3) 110	(22) 712	(2) 6	(24) 718	普通学級数22 特別支援学級数2
27	(4) 112	(4) 133	(3) 109	(3) 116	(4) 122	(4) 128	(22) 720	(2) 6	(24) 726	普通学級数22 特別支援学級数2

平成21年度までは実数，平成22年度以降は推計値となります。

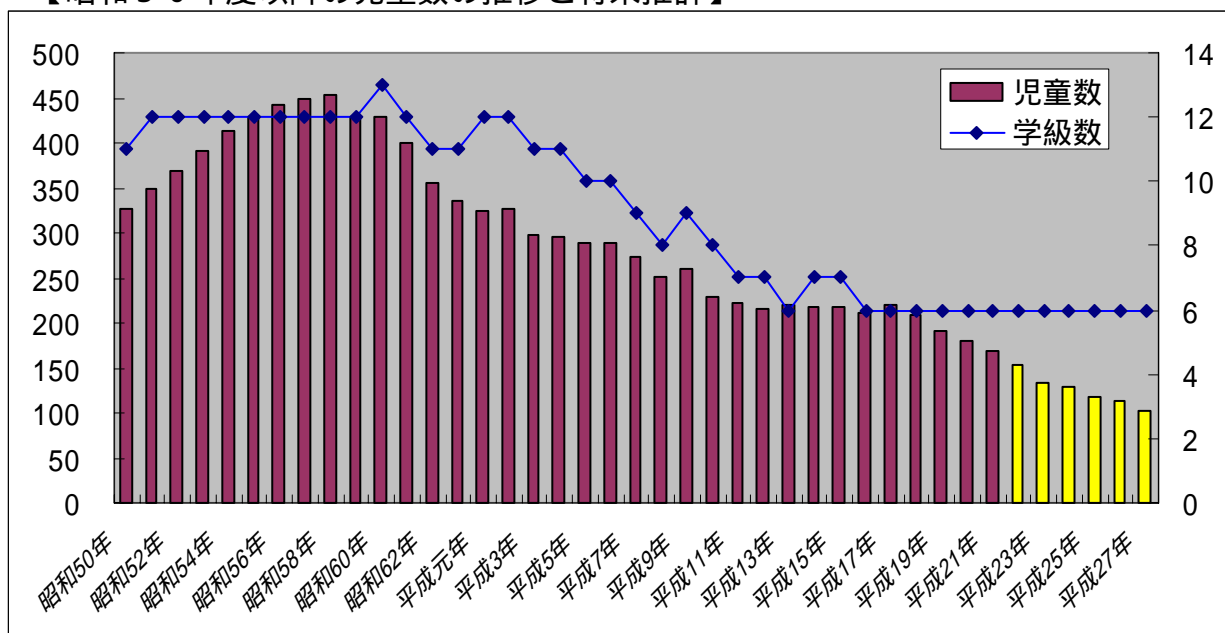
(5) 川原代小学校区

昭和58年度の児童数は、約450人（普通学級数12）でしたが、それ以降は減少傾向に転じ、平成21年度には、170人（普通学級数6）となっており、今後も少子化等により児童の減少傾向が続き、平成27年度には、100人程度になると考えられます。また、近年、川原代小学校区の一部地域から駒柴小学校への指定学校変更申請が多く寄せられています。

ピーク時の児童数等 (上段：児童数 下段：学級数)		平成21年度	ピーク時との比較
昭和58年度	453	170	37.5%
	12	6	50.0%

ピーク時の児童数等は、昭和50年度以降の最大児童数。学級数は、普通学級数を記載。

【昭和50年度以降の児童数の推移と将来推計】



各年5月1日現在の児童数。平成21年度までは実数，平成22年度以降は推計値となる。学級数は、学校規模の検討のため普通学級数を記載。

川原代小学校の通学区域の一部には、駒柴小学校のほか、龍ヶ崎西小学校にも近い地域があります。また、川原代小学校に最も遠い川原代町姫宮地区からの通学距離は、約2.0kmとなっています。小学校卒業後、ほとんどの児童は、城西中学校に進学していますが、川原代町知手地区や川原代町姫宮の児童は、愛宕中学校が指定校となっています。

平成20年度以降の学級数及び児童数

上段の()内は学級数, 下段は児童数。

学校名 川原代小学校

年度 / 学年	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	普通学級の計	特別支援学級	合計	備考
20	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(6)	(1)	(7)	普通学級数6、特別支援学級数1
	20	25	24	38	34	34	175	4	179	H20.5.1現在、学校基本調査
21	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(6)	(1)	(7)	普通学級数6、特別支援学級数1
	25	19	25	24	38	34	165	5	170	H21.5.1現在、学校基本調査
22	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(6)	(1)	(7)	普通学級数6
	18	25	19	25	24	38	149	5	154	特別支援学級数1
23	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(6)	(1)	(7)	普通学級数6
	19	17	25	19	25	24	129	5	134	特別支援学級数1
24	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(6)	(1)	(7)	普通学級数6、
	19	19	17	25	19	25	124	5	129	特別支援学級数1
25	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(6)	(1)	(7)	普通学級数6
	15	19	18	17	25	19	113	5	118	特別支援学級数1
26	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(6)	(1)	(7)	普通学級数6
	15	15	19	18	17	25	109	5	114	特別支援学級数1
27	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(6)	(1)	(7)	普通学級数6
	13	15	15	19	18	17	97	5	102	特別支援学級数1

平成21年度までは実数, 平成22年度以降は推計値となります。

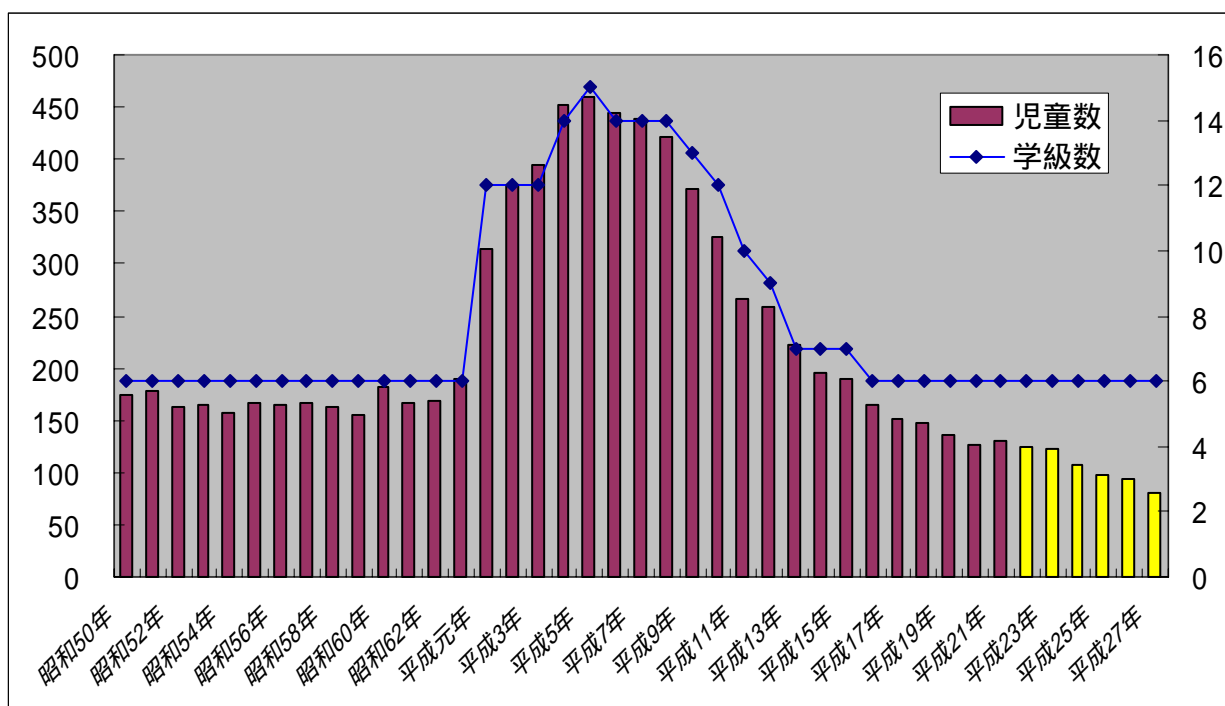
(6) 北文間小学校区

南が丘地区の宅地開発等に伴い児童数は、平成元年度から急激に増加し、平成5年度には、約460人(普通学級数15)となりましたが、それ以降は減少傾向に転じ、平成21年度には、130人(普通学級数6)となっています。今後の児童数を住民基本台帳の年齢別人口に入学率や学年進行による増減等を加味して推計すると平成25年度以降には100人を割り込み、平成27年度には80人程度になると考えられます。

ピーク時の児童数等 (上段：児童数 下段：学級数)		平成21年度	ピーク時との比較
平成5年度	459	130	28.3%
	15	6	40.0%

ピーク時の児童数等は、昭和50年度以降の最大児童数。学級数は、普通学級数を記載。

【昭和50年度以降の児童数の推移と将来推計】



各年5月1日現在の児童数。平成21年度までは実数、平成22年度以降は推計値となる。学級数は、学校規模の検討のため普通学級数を記載。

通学区域は、北文間小学校からおおむね半径1.5km圏内にありますが、最も遠い豊田町根柄地区からの通学距離は、約3.2kmとなっています。また、進学する中学校は、愛宕中学校となっています。

平成20年度以降の学級数及び児童数

上段の()内は学級数, 下段は児童数。

学校名 北文間小学校

年度/ 学年	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	普通学級 の計	特別支援 学級	合 計	備 考
20	(1) 16	(1) 23	(1) 30	(1) 18	(1) 17	(1) 21	(6) 125	(1) 1	(7) 126	普通学級数6、特別支援学級数1 H20.5.1現在、学校基本調査
21	(1) 22	(1) 17	(1) 23	(1) 32	(1) 17	(1) 17	(6) 128	(1) 2	(7) 130	普通学級数6、特別支援学級数1 H21.5.1現在、学校基本調査
22	(1) 12	(1) 22	(1) 17	(1) 23	(1) 32	(1) 17	(6) 123	(1) 2	(7) 125	普通学級数6 特別支援学級数1
23	(1) 14	(1) 12	(1) 22	(1) 17	(1) 23	(1) 32	(6) 120	(1) 2	(7) 122	普通学級数6 特別支援学級数1
24	(1) 13	(1) 14	(1) 13	(1) 23	(1) 18	(1) 24	(6) 105	(1) 2	(7) 107	普通学級数6 特別支援学級数1
25	(1) 13	(1) 13	(1) 15	(1) 13	(1) 23	(1) 18	(6) 95	(1) 2	(7) 97	普通学級数6 特別支援学級数1
26	(1) 11	(1) 13	(1) 14	(1) 15	(1) 14	(1) 24	(6) 91	(1) 2	(7) 93	普通学級数6 特別支援学級数1
27	(1) 10	(1) 11	(1) 14	(1) 14	(1) 16	(1) 14	(6) 79	(1) 2	(7) 81	普通学級数6 特別支援学級数1

平成21年度までは実数, 平成22年度以降は推計値となります。

北部地域

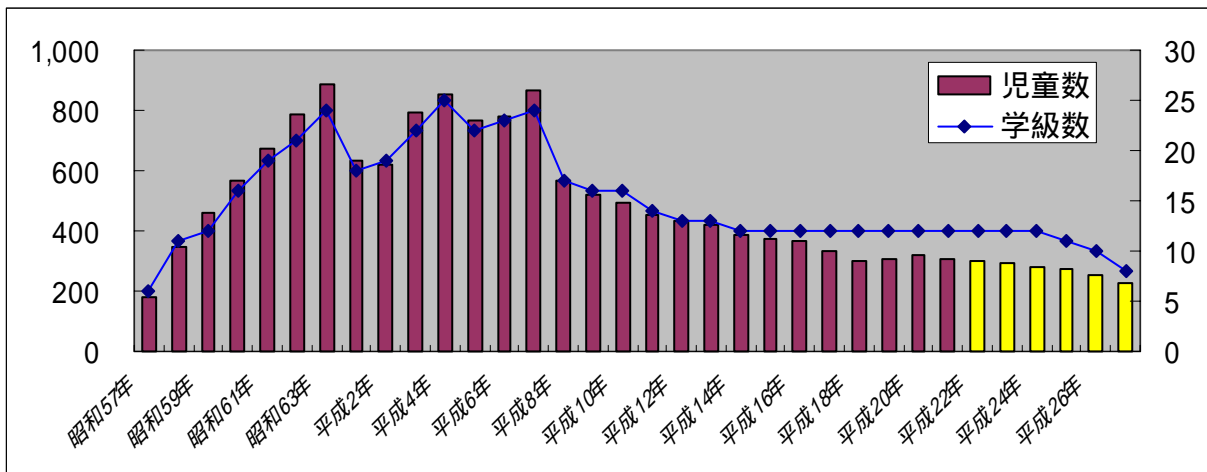
(7) 松葉小学校区

竜ヶ崎ニュータウン北竜台地区の宅地開発に伴い、昭和57年4月、松葉小学校が新設されました。新設当時の児童数は、約180人(学級数6)でしたが、昭和63年度には、約890人(学級数24)となりました。こうした状況を受けて、平成元年4月、松葉小学校の分離校として長山小学校が新設されました。また、それ以降の児童数の増加にも著しいものがあり、平成5年4月には、駒馬台小学校を、さらに平成8年4月には、久保台小学校が分離校として新設されました。これにより平成8年度の児童数は、約570人(学級数17)となりましたが、それ以降は、減少傾向に転じ平成21年度には、約310人(学級数12)となっています。今後の児童数も少子化により徐々に減少していくものと考えられます。

ピーク時の児童数等 (上段：児童数 下段：学級数)		平成21年度	ピーク時との比較
平成8年度	566	309	54.6%
	17	12	70.6%

ピーク時の児童数等は、分離校(久保台小学校)新設後の最大児童数。学級数は、普通学級数を記載。

【昭和50年度以降の児童数の推移と将来推計】



各年5月1日現在の児童数。平成21年度までは実数、平成22年度以降は推計値となる。学級数は、学校規模の検討のため普通学級数を記載。

平成元年4月、長山小学校が開校。松葉小学校の学区の一部(若柴町女化の一部及び長山)が長山小学校の学区となる。

平成5年4月、駒馬台小学校が開校。松葉小学校の学区の一部(平台及び小柴2丁目、小柴3丁目)が駒馬台小学校の学区となる。

平成8年4月、久保台小学校が開校。松葉小学校の学区の一部(久保台、中根台、小柴の一部)が久保台小学校の学区となる。

通学距離は、おおむね1.0km以内となっており、最も遠い地区からでも1.1km程度となっています。また、進学する中学校は、長山中学校になっています。

平成20年度以降の学級数及び児童数

上段の()内は学級数, 下段は児童数。

学校名 松葉小学校

年度/ 学年	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	普通学級 の計	特別支援 学級	合 計	備 考
20	(2) 50	(2) 45	(2) 51	(2) 52	(2) 52	(2) 57	(12) 307	(3) 11	(15) 318	普通学級数12、特別支援学級数3 H20.5.1現在、学校基本調査
21	(2) 54	(2) 50	(2) 44	(2) 51	(2) 50	(2) 51	(12) 300	(3) 9	(15) 309	普通学級数12、特別支援学級数3 H21.5.1現在、学校基本調査
22	(2) 49	(2) 53	(2) 49	(2) 43	(2) 50	(2) 49	(12) 293	(3) 9	(15) 302	普通学級数12 特別支援学級数3
23	(2) 43	(2) 48	(2) 52	(2) 48	(2) 42	(2) 49	(12) 282	(3) 9	(15) 291	普通学級数12 特別支援学級数3
24	(2) 44	(2) 42	(2) 48	(2) 51	(2) 47	(2) 41	(12) 273	(3) 9	(15) 282	普通学級数12 特別支援学級数3
25	(1) 36	(2) 43	(2) 42	(2) 47	(2) 50	(2) 46	(11) 264	(3) 9	(14) 273	普通学級数11 特別支援学級数3
26	(1) 30	(1) 35	(2) 43	(2) 41	(2) 46	(2) 49	(10) 244	(3) 9	(13) 253	普通学級数10 特別支援学級数3
27	(1) 28	(1) 29	(1) 35	(2) 42	(1) 40	(2) 45	(8) 219	(3) 9	(11) 228	普通学級数8 特別支援学級数3

平成21年度までは実数, 平成22年度以降は推計値となります。

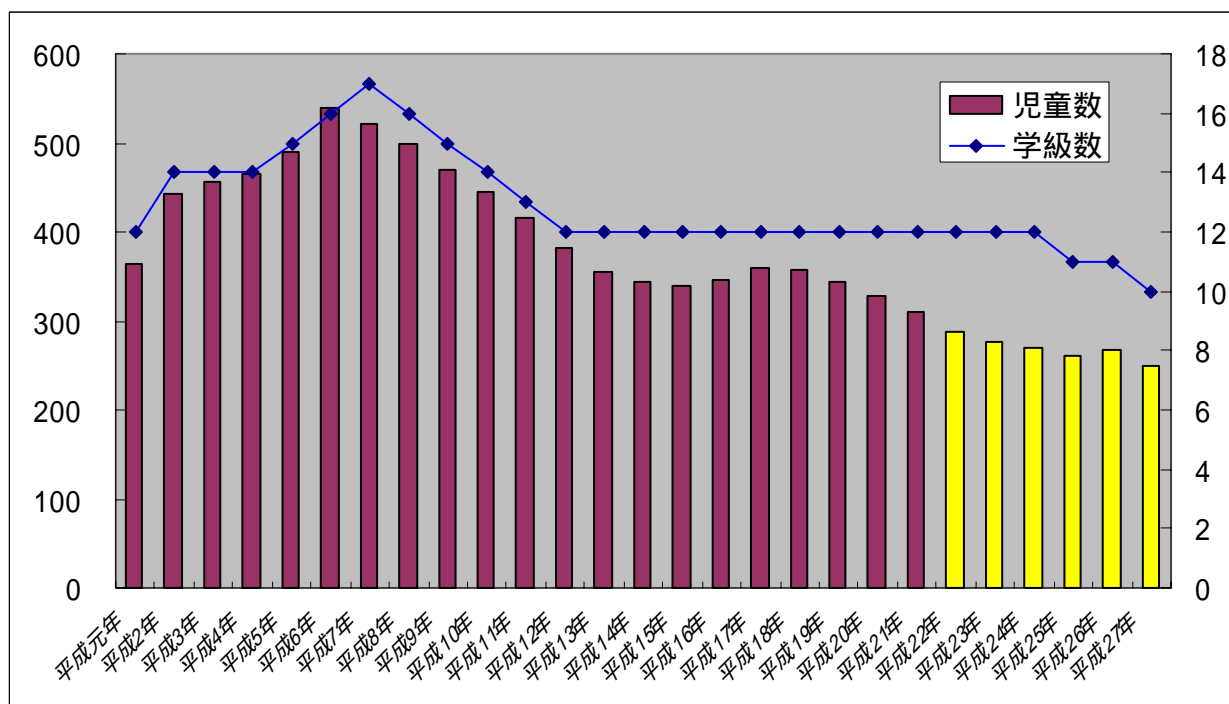
(8) 長山小学校区

平成元年4月、松葉小学校の分離校として長山小学校が新設されました。新設当時の児童数は、約360人(普通学級数12)でしたが、それ以降は平成6年度の540人(普通学級数16)をピークに減少を続け、平成21年度には、310人(普通学級数12)となっています。今後の児童数も松葉小学校と同様に徐々に減少していくものと考えられます。

ピーク時の児童数等 (上段：児童数 下段：学級数)		平成21年度	ピーク時との比較
平成6年度	540	310	57.4%
	16	12	75.0%

ピーク時の児童数等は、新設時(平成元年度)以降の最大児童数。学級数は、普通学級数を記載。

【昭和50年度以降の児童数の推移と将来推計】



各年5月1日現在の児童数。平成21年度までは実数、平成22年度以降は推計値となる。学級数は、学校規模の検討のため普通学級数を記載。

長山小学校の児童の通学距離は、おおむね1.0km以内となっています。また、進学する中学校は、長山中学校になっています。

平成20年度以降の学級数及び児童数

上段の()内は学級数, 下段は児童数。

学校名 長山小学校

年度/ 学年	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	普通学級 の計	特別支援 学級	合 計	備 考
20	(2) 46	(2) 48	(2) 46	(2) 62	(2) 61	(2) 64	(12) 327	(1) 2	(13) 329	普通学級数12、特別支援学級数1 H20.5.1現在、学校基本調査
21	(2) 46	(2) 45	(2) 46	(2) 51	(2) 58	(2) 61	(12) 307	(1) 3	(13) 310	普通学級数12、特別支援学級数1 H21.5.1現在、学校基本調査
22	(2) 44	(2) 45	(2) 44	(2) 45	(2) 50	(2) 57	(12) 285	(1) 3	(13) 288	普通学級数12 特別支援学級数1
23	(2) 50	(2) 43	(2) 44	(2) 43	(2) 44	(2) 49	(12) 273	(1) 3	(13) 276	普通学級数12 特別支援学級数1
24	(2) 45	(2) 50	(2) 43	(2) 43	(2) 42	(2) 43	(12) 266	(1) 3	(13) 269	普通学級数12 特別支援学級数1
25	(1) 37	(2) 44	(2) 49	(2) 42	(2) 43	(2) 42	(11) 257	(1) 3	(12) 260	普通学級数11 特別支援学級数1
26	(2) 53	(1) 36	(2) 44	(2) 48	(2) 41	(2) 42	(11) 264	(1) 3	(12) 267	普通学級数11 特別支援学級数1
27	(1) 27	(2) 53	(1) 35	(2) 43	(2) 47	(2) 41	(10) 246	(1) 3	(11) 249	普通学級数10 特別支援学級数1

平成21年度までは実数, 平成22年度以降は推計値となります。

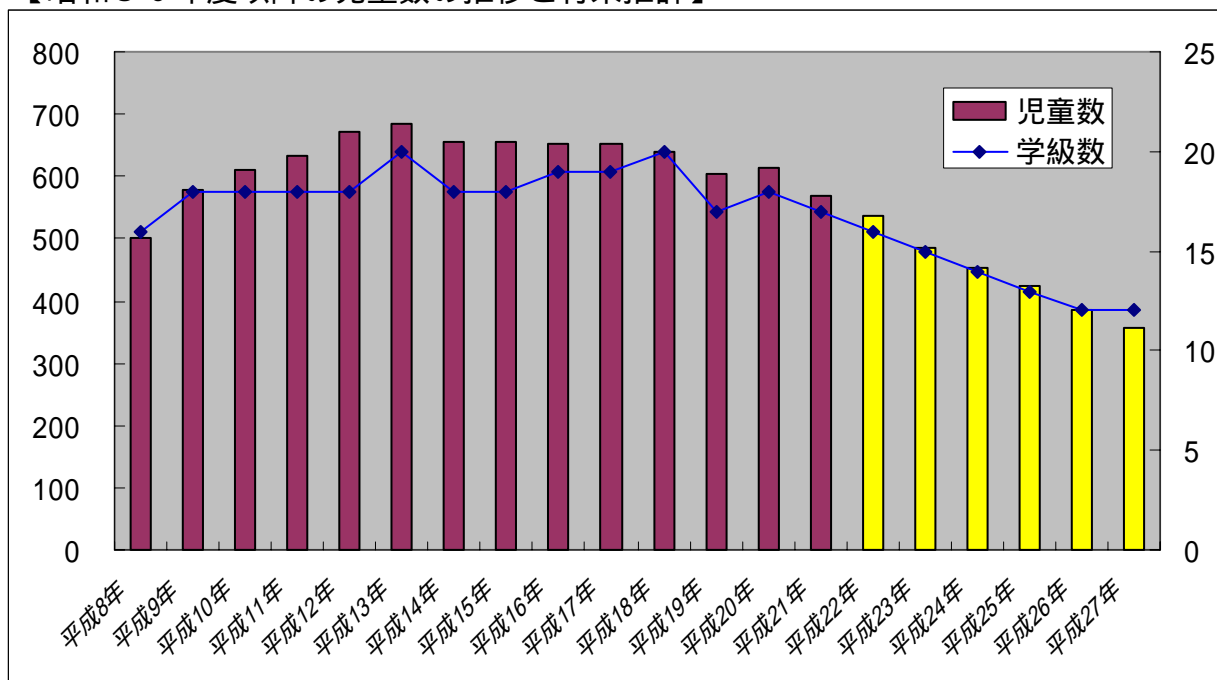
(9) 久保台小学校区

平成8年4月、松葉小学校の分離校として久保台小学校が新設されました。新設当時の児童数は、約500人(普通学級数16)でしたが、それ以降は、平成13年度の約680人(普通学級数20)をピークに徐々に減少を続け、平成21年度には、約570人(普通学級数17)となっています。今後の児童数は、著しく減少していくものと考えられます。

ピーク時の児童数等 (上段：児童数 下段：学級数)		平成21年度	ピーク時との比較
平成13年度	683	569	83.3%
	20	17	85.0%

ピーク時の児童数等は、新設時(平成元年度)以降の最大児童数。学級数は、普通学級数を記載。

【昭和50年度以降の児童数の推移と将来推計】



各年5月1日現在の児童数。平成21年度までは実数、平成22年度以降は推計値となる。学級数は、学校規模の検討のため普通学級数を記載。

久保台小学校の学区は、久保台地区や中根台地区等が中心となっており、久保台小学校からおおむね半径1.3km圏内にありますが、最も遠い長山前地区からの通学距離は、約3.0kmとなっています。また、進学する中学校は、中根台中学校となっています。

平成20年度以降の学級数及び児童数

上段の()内は学級数, 下段は児童数。

学校名 久保台小学校

年度/ 学年	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	普通学級 の計	特別支援 学級	合 計	備 考
20	(3) 87	(3) 97	(3) 95	(3) 109	(3) 108	(3) 114	(18) 610	(1) 3	(19) 613	普通学級数18、特別支援学級数1 H20.5.1現在、学校基本調査
21	(2) 72	(3) 87	(3) 94	(3) 99	(3) 106	(3) 109	(17) 567	(1) 2	(18) 569	普通学級数17、特別支援学級数1 H21.5.1現在、学校基本調査
22	(2) 76	(2) 72	(3) 87	(3) 94	(3) 99	(3) 106	(16) 534	(1) 2	(17) 536	普通学級数16 特別支援学級数1
23	(2) 56	(2) 76	(2) 72	(3) 87	(3) 94	(3) 99	(15) 484	(1) 2	(16) 486	普通学級数15 特別支援学級数1
24	(2) 67	(2) 56	(2) 76	(2) 72	(3) 87	(3) 94	(14) 452	(1) 2	(15) 454	普通学級数14 特別支援学級数1
25	(2) 63	(2) 67	(2) 56	(2) 76	(2) 72	(3) 87	(13) 421	(1) 2	(14) 423	普通学級数13 特別支援学級数1
26	(2) 48	(2) 63	(2) 67	(2) 56	(2) 76	(2) 72	(12) 382	(1) 2	(13) 384	普通学級数12 特別支援学級数1
27	(2) 46	(2) 48	(2) 63	(2) 67	(2) 56	(2) 76	(12) 356	(1) 2	(13) 358	普通学級数12 特別支援学級数1

平成21年度までは実数, 平成22年度以降は推計値となります。

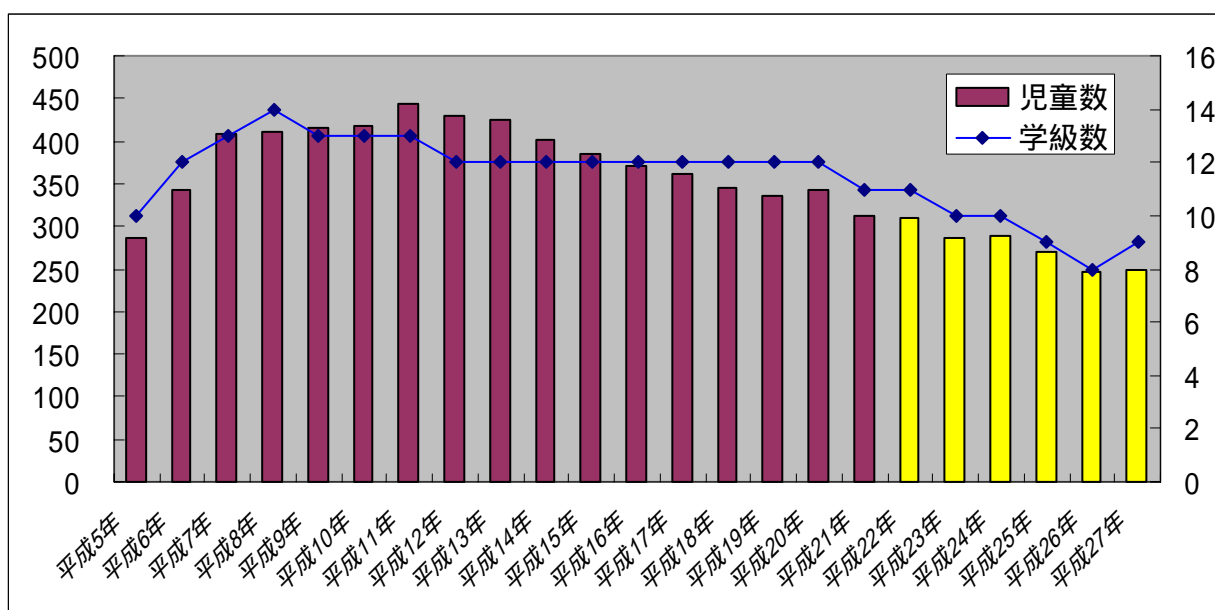
(10) 駒馬台小学校区

平成5年4月、松葉小学校の分離校として旧駒馬小学校を統合する形で駒馬台小学校が新設されました。新設当時の児童数は、約290人（普通学級数10）でしたが、それ以降は、平成11年度の約440人（普通学級数13）をピークに徐々に減少を続け、平成21年度には、約310人（普通学級数11）となっています。今後の児童数も、少子化により徐々に減少していくものと考えられます。

ピーク時の児童数等 (上段：児童数 下段：学級数)		平成21年度	ピーク時との比較
平成11年度	444	312	70.3%
	13	11	84.6%

ピーク時の児童数等は、新設時（平成5年度）以降の最大児童数。学級数は、普通学級数を記載。

【昭和50年度以降の児童数の推移と将来推計】



各年5月1日現在の児童数。平成21年度までは実数，平成22年度以降は推計値となる。学級数は、学校規模の検討のため普通学級数を記載。

平成8年4月、久保台小学校が開校。駒馬台小学校の学区の一部（長山前の一部）が久保台小学校の学区となる。また、同時期に駒柴小学校の学区であった稲荷新田町が駒馬台小学校の学区となる。

駒馬台小学校の学区は、平台地区、小柴地区、駒馬町地区等が中心となっており、駒馬台小学校から最も遠い駒馬町南地区（竜ヶ崎自動車教習所付近）からの通学距離は、約1.7kmとなっています。また、進学する中学校は、中根台中学校と愛宕中学校になっていますが、愛宕中学校が指定校となっている駒馬町地区の児童のほとんどは、指定校変更により中根台中学校へ進学しています。

平成20年度以降の学級数及び児童数

上段の()内は学級数, 下段は児童数。

学校名 駒馬台小学校

年度/ 学年	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	普通学級 の計	特別支援 学級	合 計	備 考
20	(2) 57	(2) 51	(2) 57	(2) 61	(2) 49	(2) 66	(12) 341	(1) 2	(13) 343	普通学級数12、特別支援学級数1 H20.5.1現在、学校基本調査
21	(1) 36	(2) 59	(2) 50	(2) 53	(2) 65	(2) 48	(11) 311	(1) 1	(12) 312	普通学級数11、特別支援学級数1 H21.5.1現在、学校基本調査
22	(2) 45	(1) 36	(2) 59	(2) 50	(2) 53	(2) 65	(11) 308	(1) 1	(12) 309	普通学級数11 特別支援学級数1
23	(1) 39	(2) 45	(1) 37	(2) 60	(2) 51	(2) 54	(10) 286	(1) 1	(11) 287	普通学級数10 特別支援学級数1
24	(2) 54	(1) 39	(2) 46	(1) 37	(2) 60	(2) 51	(10) 287	(1) 1	(11) 288	普通学級数10 特別支援学級数1
25	(1) 30	(2) 54	(1) 40	(2) 46	(1) 38	(2) 61	(9) 269	(1) 1	(10) 270	普通学級数9 特別支援学級数1
26	(1) 34	(1) 30	(2) 55	(1) 40	(2) 47	(1) 39	(8) 245	(1) 1	(9) 246	普通学級数8 特別支援学級数1
27	(1) 38	(1) 34	(1) 31	(2) 55	(2) 41	(2) 48	(9) 247	(1) 1	(10) 248	普通学級数9 特別支援学級数1

平成21年度までは実数, 平成22年度以降は推計値となります。

東部地域

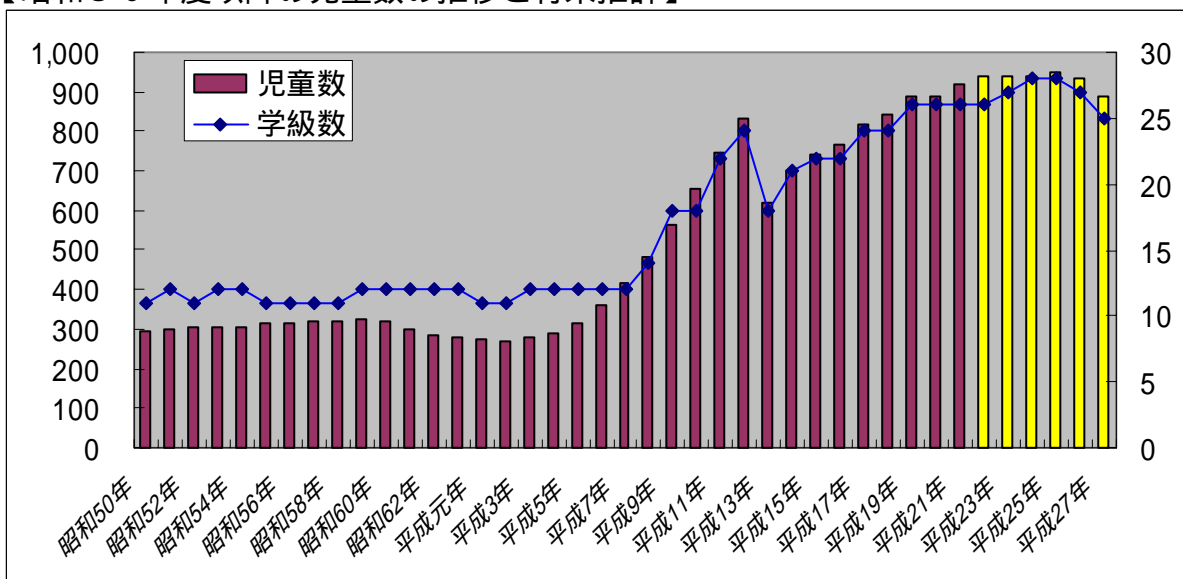
(11) 八原小学校区

平成2年度の児童数は、約270人（普通学級数11）でしたが、竜ヶ崎ニュータウン龍ヶ岡地区の開発に伴い、平成12年度には、約830人（普通学級数24）となりました。この児童数の増加傾向に対応するため、平成13年4月、八原小学校の分離校として城ノ内小学校が新設されました。平成21年度の八原小学校の児童数は、約920人（普通学級数26）となっていますが、児童の増加傾向は今後徐々に鈍化していくものと考えられます。

ピーク時の児童数等 (上段：児童数 下段：学級数)		平成21年度	ピーク時との比較
平成21年度	919	同左	-
	26		-

ピーク時の児童数等は、分離校（城ノ内小学校）新設後の最大児童数。学級数は、普通学級数を記載。

【昭和50年度以降の児童数の推移と将来推計】



各年5月1日現在の児童数。平成21年度までは実数、平成22年度以降は推計値となる。学級数は、学校規模の検討のため普通学級数を記載。

平成8年4月、久保台小学校が開校。八原小学校の学区の一部（別所町）が久保台小学校の学区となる。

平成13年4月、城ノ内小学校が開校。八原小学校の学区の一部（八代町の一部・城ノ内3丁目から5丁目・中里3丁目・白羽の一部）が城ノ内小学校の学区となる。

八原小学校の学区は、龍ヶ岡市街地を中心として広範囲に渡っており、最も遠い泉地区（小野川町田橋付近）からの通学距離は、約3.9kmとなっています。また、進学する中学校は、城ノ内中学校になっています。

平成20年度以降の学級数及び児童数

上段の()内は学級数, 下段は児童数。

学校名 八原小学校

年度/ 学年	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	普通学級 の計	特別支援 学級	合 計	備 考
20	(5) 163	(5) 142	(4) 150	(4) 147	(4) 142	(4) 135	(26) 879	(2) 10	(28) 889	普通学級数26、特別支援学級数2 H20.5.1現在、学校基本調査
21	(5) 168	(5) 158	(4) 138	(4) 150	(4) 148	(4) 142	(26) 904	(3) 15	(29) 919	普通学級数26、特別支援学級数3 H21.5.1現在、学校基本調査
22	(4) 133	(5) 174	(5) 164	(4) 144	(4) 156	(4) 154	(26) 925	(3) 15	(29) 940	普通学級数26 特別支援学級数3
23	(5) 153	(4) 134	(5) 174	(5) 164	(4) 144	(4) 156	(27) 925	(3) 15	(30) 940	普通学級数27 特別支援学級数3
24	(5) 154	(5) 153	(4) 134	(5) 174	(5) 164	(4) 144	(28) 923	(3) 15	(31) 938	普通学級数28 特別支援学級数3
25	(5) 156	(5) 154	(4) 153	(4) 134	(5) 174	(5) 164	(28) 935	(3) 15	(31) 950	普通学級数28 特別支援学級数3
26	(5) 148	(5) 156	(4) 154	(4) 153	(4) 134	(5) 174	(27) 919	(3) 15	(30) 934	普通学級数27 特別支援学級数3
27	(4) 129	(5) 148	(4) 156	(4) 154	(4) 153	(4) 134	(25) 874	(3) 15	(28) 889	普通学級数25 特別支援学級数3

平成21年度までは実数, 平成22年度以降は推計値となります。

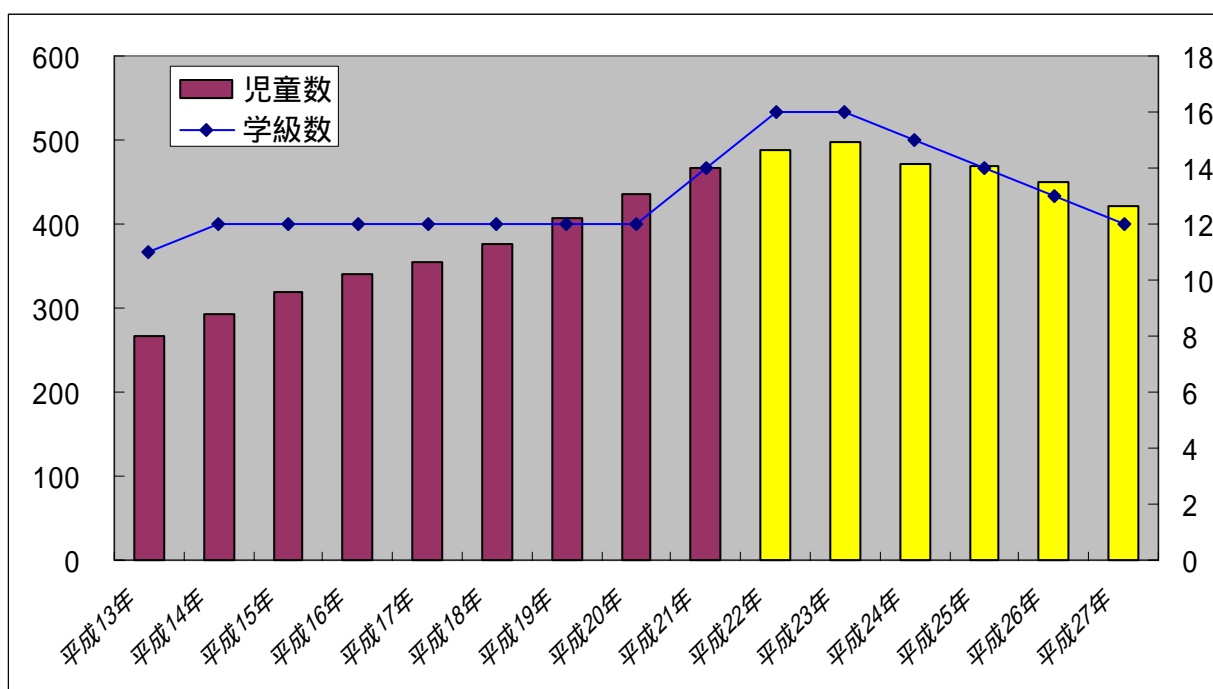
(12) 城ノ内小学校区

平成13年4月、八原小学校の分離校として城ノ内小学校が新設されました。新設当時の児童数は、約270人（普通学級数11）でしたが平成21年度には、約470人（普通学級数14）となっています。児童の増加傾向は、八原小学校と同様に今後徐々に鈍化していくものと考えられます。

ピーク時の児童数等 (上段：児童数 下段：学級数)		平成21年度	ピーク時との比較
平成21年度	466	同左	-
	14		-

ピーク時の児童数等は、新設時（平成13年度）以降の最大児童数。学級数は、普通学級数を記載。

【昭和50年度以降の児童数の推移と将来推計】



各年5月1日現在の児童数。平成21年度までは実数、平成22年度以降は推計値となる。学級数は、学校規模の検討のため普通学級数を記載。

城ノ内小学校の学区は、龍ヶ岡市街地が中心となっており最も遠い城ノ内4丁目からの通学距離は、1.3km程度となっています。また、進学する中学校は、城ノ内中学校となっています。

平成20年度以降の学級数及び児童数

上段の()内は学級数, 下段は児童数。

学校名 城ノ内小学校

年度/ 学年	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	普通学級 の計	特別支援 学級	合 計	備 考
20	(2) 77	(2) 76	(2) 78	(2) 65	(2) 71	(2) 63	(12) 430	(1) 5	(13) 435	普通学級数12、特別支援学級数1 H20.5.1現在、学校基本調査
21	(3) 85	(3) 81	(2) 77	(2) 78	(2) 65	(2) 71	(14) 457	(2) 9	(16) 466	普通学級数14、特別支援学級数2 H21.5.1現在、学校基本調査
22	(2) 72	(3) 89	(3) 85	(3) 81	(3) 82	(2) 69	(16) 478	(2) 9	(18) 487	普通学級数16 特別支援学級数2
23	(2) 80	(2) 72	(3) 89	(3) 85	(3) 81	(3) 82	(16) 489	(2) 9	(18) 498	普通学級数16 特別支援学級数2
24	(2) 56	(2) 79	(2) 72	(3) 89	(3) 85	(3) 81	(15) 462	(2) 9	(17) 471	普通学級数15 特別支援学級数2
25	(2) 78	(2) 56	(2) 79	(2) 72	(3) 89	(3) 85	(14) 459	(2) 9	(16) 468	普通学級数14 特別支援学級数2
26	(2) 65	(2) 79	(2) 56	(2) 79	(2) 72	(3) 89	(13) 440	(2) 9	(15) 449	普通学級数13 特別支援学級数2
27	(2) 64	(2) 65	(2) 78	(2) 56	(2) 78	(2) 71	(12) 412	(2) 9	(14) 421	普通学級数12 特別支援学級数2

平成21年度までは実数, 平成22年度以降は推計値となります。

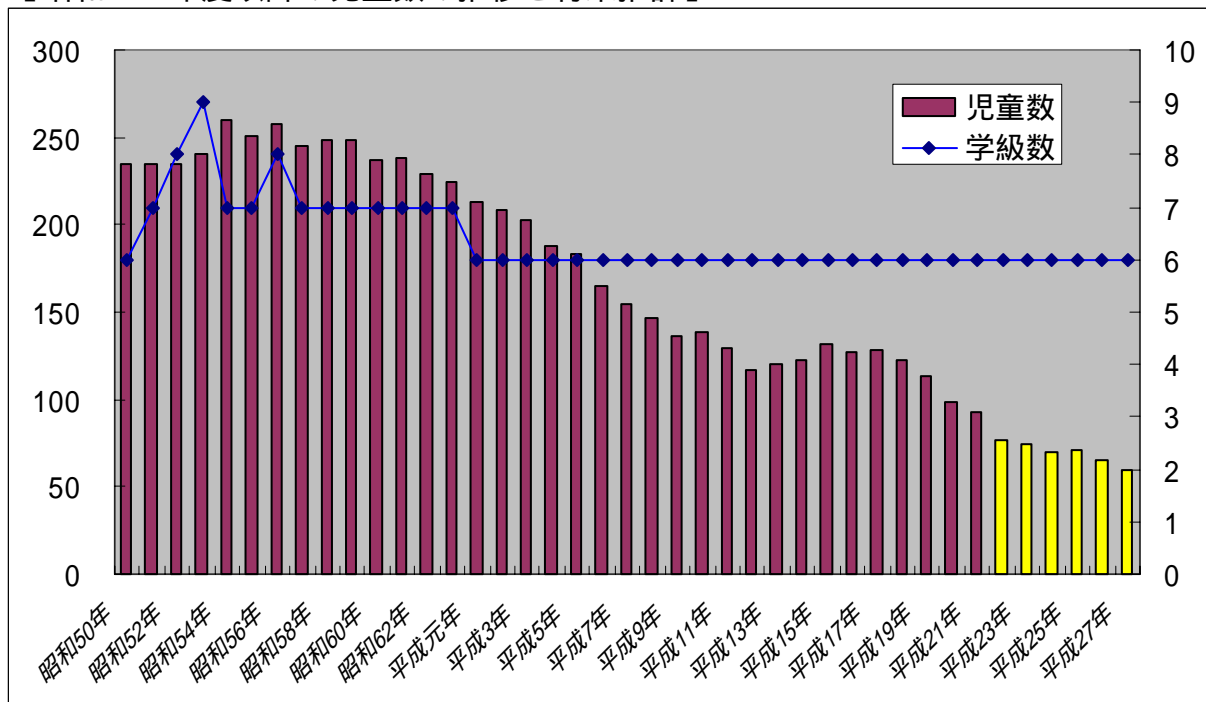
(13) 長戸小学校区

昭和54年度の児童数は、260人でしたが、平成21年度には約90人となっており、平成26年度以降には60人程度になると考えられます。さらに、今後の児童数を住民基本台帳の年齢別人口に入学率を加味して推計すると平成22年度の1年生は、6人（すべて男子児童）となり、平成24年度の1年生は、7人になると考えられます。

ピーク時の児童数等 (上段：児童数 下段：学級数)		平成21年度	ピーク時との比較
昭和54年度	260	93	35.8%
	7	6	85.7%

ピーク時の児童数等は、昭和50年度以降の最大児童数。学級数は、普通学級数を記載。

【昭和50年度以降の児童数の推移と将来推計】



各年5月1日現在の児童数。平成21年度までは実数、平成22年度以降は推計値となる。学級数は、学校規模の検討のため普通学級数を記載。

平成13年4月、城ノ内小学校が開校。長戸小学校の学区の一部（八代町の一部及び白羽の一部）が城ノ内小学校の学区となる。

長戸小学校の学区は、広範囲に渡っていますが人口密度が低く、市内で一番小規模な小学校となっています。また、長戸小学校から最も遠い大塚地区（板橋公民館経由）からの通学距離は、約3.2kmとなっており、大塚地区や板橋地区の児童は、コミュニティ・バスで通学しています。進学する中学校は、城ノ内中学校になっています。

平成20年度以降の学級数及び児童数

上段の()内は学級数, 下段は児童数。

学校名 長戸小学校

年度/ 学年	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	普通学級 の計	特別支援 学級	合 計	備 考
20	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(6)	(1)	(7)	普通学級数6、特別支援学級数1
	17	12	12	13	21	23	98	1	99	H20.5.1現在、学校基本調査
21	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(6)	(1)	(7)	普通学級数6、特別支援学級数1
	14	16	12	12	15	22	91	2	93	H21.5.1現在、学校基本調査
22	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(6)	(1)	(7)	普通学級数6
	6	14	16	12	12	15	75	2	77	特別支援学級数1
23	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(6)	(1)	(7)	普通学級数6
	13	6	14	16	12	12	73	2	75	特別支援学級数1
24	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(6)	(1)	(7)	普通学級数6
	7	13	6	14	16	12	68	2	70	特別支援学級数1
25	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(6)	(1)	(7)	普通学級数6
	14	7	13	5	14	16	69	2	71	特別支援学級数1
26	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(6)	(1)	(7)	普通学級数6
	11	14	6	13	5	14	63	2	65	特別支援学級数1
27	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(6)	(1)	(7)	普通学級数6
	8	11	14	6	13	5	57	2	59	特別支援学級数1

平成21年度までは実数, 平成22年度以降は推計値となります。

児童・学級数一覧（平成21年5月1日現在）

（小学校）

学校名	1年				2年				3年				4年				5年				6年				合計						
	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	児童数
（南部地域）																															
龍ヶ崎小	28	39	67	2	34	33	67	2	52	44	96	3	38	35	73	2	33	48	81	2	47	42	89	3	232	241	473	(7)	14	(2)	
龍ヶ崎西小	20	18	38	1	20	22	42	2	18	21	39	1	23	27	50	2	25	23	48	2	22	21	43	2	128	132	260	(4)	10	(3)	
大宮小	11	13	24	1	15	8	23	1	19	12	31	1	15	14	29	1	14	9	23	1	18	13	31	1	92	69	161	(6)	6	(2)	
（西部地域）																															
馴染小	40	64	104	3	58	51	109	4	50	50	100	3	60	60	120	3	51	56	107	3	57	67	124	4	316	348	664	(6)	20	(2)	
川原代小	13	14	27	1	12	8	20	1	12	13	25	1	16	9	25	1	21	18	39	1	19	15	34	1	93	77	170	(5)	6	(1)	
北文間小	16	7	23	1	10	7	17	1	14	9	23	1	17	15	32	1	6	12	18	1	10	7	17	1	73	57	130	(2)	6	(1)	
（北部地域）																															
松葉小	30	24	54	2	31	23	54	2	21	25	46	2	27	25	52	2	29	23	52	2	22	29	51	2	160	149	309	(9)	12	(3)	
長山小	23	24	47	2	16	29	45	2	25	21	46	2	29	22	51	2	32	28	60	2	37	24	61	2	162	148	310	(3)	12	(1)	
久保台小	44	28	72	2	39	48	87	3	46	49	95	3	53	46	99	3	55	52	107	3	62	47	109	3	299	270	569	(2)	17	(1)	
馴染台小	19	17	36	1	32	27	59	2	35	15	50	2	20	34	54	2	40	25	65	2	25	23	48	2	171	141	312	(1)	11	(1)	
（東部地域）																															
八原小	88	80	168	5	90	72	162	5	76	63	139	4	74	80	154	4	68	82	150	4	66	80	146	4	462	457	919	(15)	26	(3)	
城ノ内小	44	45	89	3	30	51	81	3	40	39	79	2	41	39	80	2	38	27	65	2	31	41	72	2	224	242	466	(9)	14	(2)	
長戸小	2	12	14	1	12	5	17	1	5	7	12	1	6	6	12	1	10	5	15	1	17	6	23	1	52	41	93	(2)	6	(1)	
計	378	385	763	25	399	384	783	29	413	368	781	26	419	412	831	26	422	408	830	26	433	415	848	28	2,464	2,372	4,836	(71)	160	(23)	

（ ）内の児童数は、特別支援学級の内数。

（ ）内の学級数は、特別支援学級の外数。

3 各中学校の状況

中学校区別地域区分図



【学級数別学校数の推移（中学校）】

学級数	5学級以下	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25学級以上	計
昭和50年度												1							1			2
平成元年度									1				1			1	1					4
平成10年度							1			1			1	1					1			5
平成20年度				1	2			1		1			1									6
平成25年度					3		1	1								1						6

学校規模の検討のため学級数は、普通学級数のみを記載。平成25年度については、推計値となる。

地域区分毎に市内中学校を見た場合の具体的な状況は、次のとおりです。

南部地域

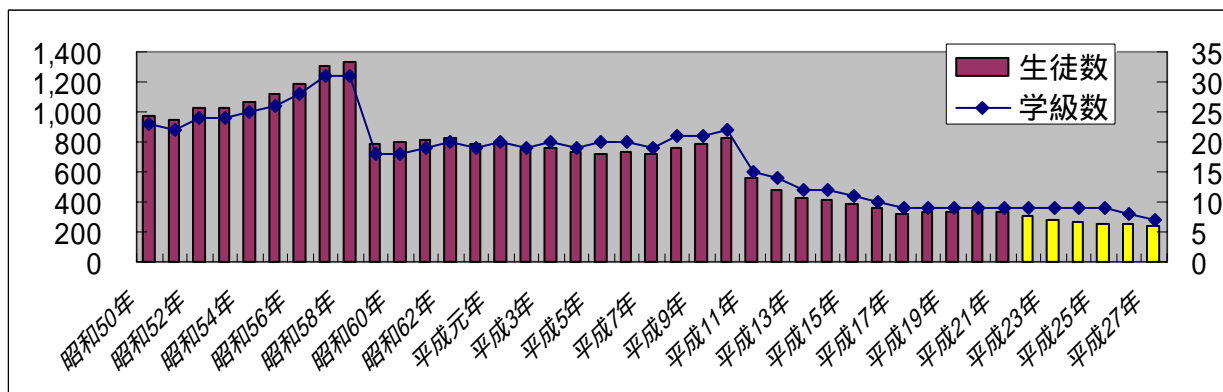
(1) 愛宕中学校区

昭和50年代、生徒数は増加の一途をたどり、昭和58年度には、1,300人を超える状況となっていたことから、昭和59年4月、愛宕中学校の分離校として城西中学校が新設されました。さらに平成11年4月には、竜ヶ崎ニュータウン龍ヶ岡地区の宅地開発に対応するため、城ノ内中学校を新設、これにより松ヶ丘、中里、城ノ内の一部等と併せて羽原町、貝原塚町、泉町についても愛宕中学校から城ノ内中学校の区域となりました。分離校（城ノ内中学校）を新設した平成11年度の生徒数は、約560人（普通学級数15）でしたが、それ以降は、減少傾向に転じ平成21年度には、約330人（普通学級数9）となっています。今後も生徒数は、少子化により徐々に減少していくものと考えられます。

ピーク時の児童数等 (上段：児童数 下段：学級数)		平成21年度	ピーク時との比較
平成11年度	555	332	59.8%
	15	9	60.0%

ピーク時の児童数等は、分離校（城ノ内中学校）新設後の最大児童数。学級数は、普通学級数を記載。

【昭和50年度以降の児童数の推移と将来推計】



各年5月1日現在の生徒数。平成21年度までは実数、平成22年度以降は推定値となる。学級数は、学校規模の検討のため普通学級数を記載。

昭和59年4月、城西中学校が開校。愛宕中学校の学区であった馴柴小学校の学区（稲荷新田町を除く。）及び川原代小学校の学区（知手、姫宮を除く。）は、城西中学校の学区となる。

平成11年4月、城ノ内中学校が開校。愛宕中学校の学区であった八原小学校の学区の一部（藤ヶ丘、松ヶ丘、中里、城ノ内の一部、羽原町、貝原塚町、泉町等）が、愛宕中学校から城ノ内中学校の学区となる。また、同時期に愛宕中学校の学区であった別所町は、中根台中学校の学区となる。

通学区域は、龍ヶ崎小学校学区の一部（富士見、根町、愛戸町）、北文間小学校の学区、川原代小学校学区の一部（川原代町知手地区及び川原代町姫宮地区。）、龍ヶ崎西小学校の学区（高砂地区及び直鮎地区を除く。）、及び馴馬台小学校学区の一部（馴馬町地区等。）となっていますが、馴馬町地区のほとんどの児童は、指定校変更申請により中根台中学校へ進学しています。また、最も遠い羽黒町地区や豊田町根柄地区からの通学距離は、約6.1kmとなっています。

平成20年度以降の学級数及び生徒数

上段の()内は学級数, 下段は生徒数。

学校名

愛宕中学校

年度/学年	1学年	2学年	3学年	普通学級の計	特別支援学級	合計	備考
20	(3) 115	(3) 114	(3) 115	(9) 344	(2) 3	(11) 347	普通学級数9、特別支援学級数2 H20.5.1現在、学校基本調査
21	(3) 99	(3) 113	(3) 115	(9) 327	(2) 5	(11) 332	普通学級数9、特別支援学級数2 H21.5.1現在、学校基本調査
22	(3) 91	(3) 98	(3) 112	(9) 301	(2) 5	(11) 306	普通学級数9 特別支援学級数2
23	(3) 84	(3) 90	(3) 97	(9) 271	(2) 5	(11) 276	普通学級数9 特別支援学級数2
24	(3) 90	(3) 84	(3) 89	(9) 263	(2) 5	(11) 268	普通学級数9 特別支援学級数2
25	(3) 83	(3) 89	(3) 83	(9) 255	(2) 5	(11) 260	普通学級数9、 特別支援学級数2
26	(2) 75	(3) 82	(3) 88	(8) 245	(2) 5	(10) 250	普通学級数8 特別支援学級数2
27	(2) 76	(2) 74	(3) 81	(7) 231	(2) 5	(9) 236	普通学級数7 特別支援学級数2

平成21年度までは実数, 平成22年度以降は推計値となります。

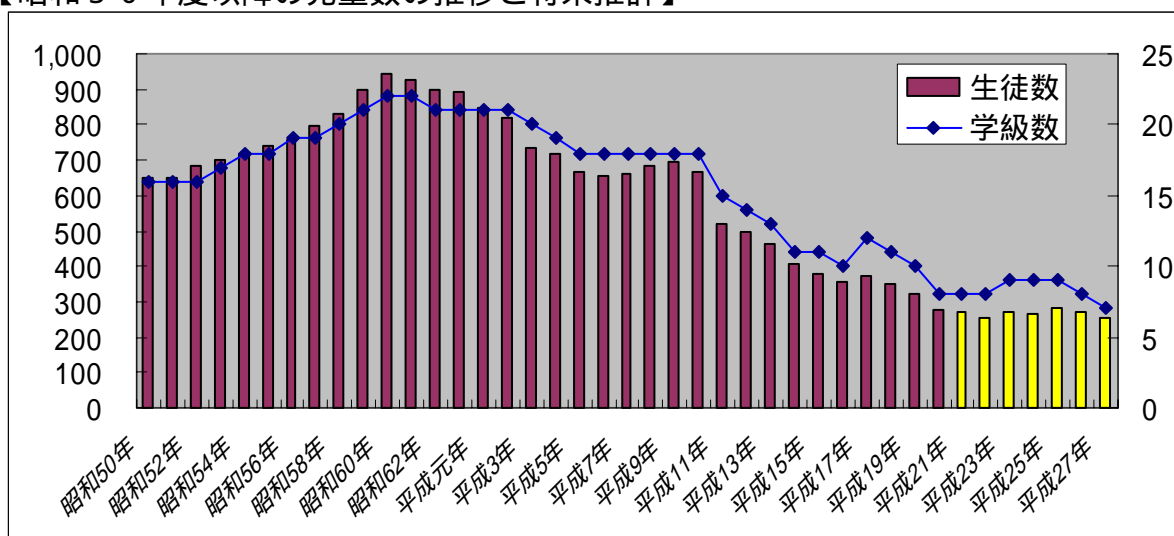
(2) 城南中学校区

平成10年度の生徒数は、約660人(普通学級数18)でしたが、竜ヶ崎ニュータウン龍ヶ岡地区の宅地開発に対応するため、平成11年4月、城ノ内中学校を新設、これにより、城南中学校の区域の一部(長戸小学校の学区及び八代町、白羽、城ノ内の一部)が、城ノ内中学校の区域となりました。平成11年度の生徒数は、約520人(普通学級数15)でしたが、それ以降は減少傾向に転じ平成21年度には、約270人(普通学級数8)となっています。生徒数は、少子化により今後も徐々に減少していくものと考えられます。

ピーク時の児童数等 (上段：児童数 下段：学級数)		平成21年度	ピーク時との比較
平成11年度	521	269	51.6%
	15	8	53.3%

ピーク時の児童数等は、分離校(城ノ内中学校)新設後の最大児童数。学級数は、普通学級数を記載。

【昭和50年度以降の児童数の推移と将来推計】



各年5月1日現在の生徒数。平成21年度までは実数、平成22年度以降は推計値となる。学級数は、学校規模の検討のため普通学級数を記載。

平成11年4月、城ノ内中学校が開校。城南中学校の学区であった長戸小学校の学区及び八原小学校の学区の一部(八代町・城ノ内3丁目から5丁目・白羽)は、城ノ内中学校の学区となる。

通学区域は、竜ヶ崎小学校の学区(富士見、根町、愛戸町を除く。)、大宮小学校の学区、竜ヶ崎西小学校の学区の一部(高砂地区及び直鮎地区。)となっています。また、城南中学校から最も遠い北河原地区からの通学距離は、約5.1kmとなっています。

平成20年度以降の学級数及び生徒数

上段の()内は学級数, 下段は生徒数。

学校名

城南中学校

年度/学年	1学年	2学年	3学年	普通学級の計	特別支援学級	合計	備 考
20	(2) 78	(3) 101	(3) 96	(8) 275	(2) 3	(10) 278	普通学級数8、特別支援学級数2 H20.5.1現在、学校基本調査
21	(3) 89	(2) 76	(3) 100	(8) 265	(2) 4	(10) 269	普通学級数8、特別支援学級数2 H21.5.1現在、学校基本調査
22	(3) 87	(3) 88	(2) 75	(8) 250	(2) 4	(10) 254	普通学級数8 特別支援学級数2
23	(3) 92	(3) 86	(3) 87	(9) 265	(2) 4	(11) 269	普通学級数9 特別支援学級数2
24	(3) 88	(3) 91	(3) 85	(9) 264	(2) 4	(11) 268	普通学級数9 特別支援学級数2
25	(3) 100	(3) 87	(3) 90	(9) 277	(2) 4	(11) 281	普通学級数9 特別支援学級数2
26	(2) 79	(3) 99	(3) 86	(8) 264	(2) 4	(10) 268	普通学級数8 特別支援学級数2
27	(2) 76	(2) 78	(3) 98	(7) 252	(2) 4	(9) 256	普通学級数7 特別支援学級数2

平成21年度までは実数, 平成22年度以降は推計値となります。

西部地域

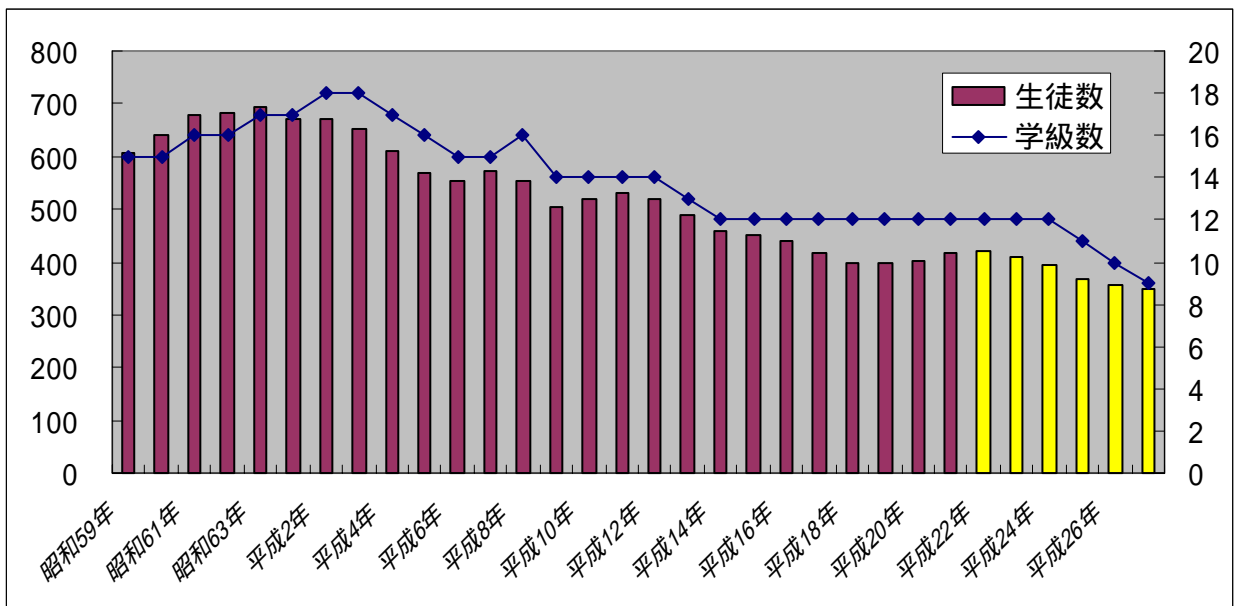
(3) 城西中学校区

昭和59年4月、愛宕中学校の分離校として城西中学校が新設されました。新設当時の生徒数は、約610人(普通学級数15)でしたが、それ以降は昭和63年度の約690人(普通学級数17)をピークに減少を続けており平成21年度には、約420人(普通学級数12)となっています。生徒数は、少子化により今後も徐々に減少していくものと考えられます。

ピーク時の児童数等 (上段：児童数 下段：学級数)		平成21年度	ピーク時との比較
昭和63年度	693	416	60.0%
	17	12	70.6%

ピーク時の児童数等は、新設時(昭和59年度)以降の最大児童数。学級数は、普通学級数を記載。

【昭和50年度以降の児童数の推移と将来推計】



各年5月1日現在の生徒数。平成21年度までは実数、平成22年度以降は推計値となる。学級数は、学校規模の検討のため普通学級数を記載。

通学区域は、馴柴小学校の学区及び川原代小学校の学区(川原代町知手地区及び川原代町姫宮地区を除く。)となっています。また、城西中学校から最も遠い庄兵衛新田地区や若柴北地区(星宮神社付近)からの通学距離は、約2.6kmとなっています。

平成20年度以降の学級数及び生徒数

上段の()内は学級数, 下段は生徒数。

学校名

城西中学校

年度/学年	1学年	2学年	3学年	普通学級の計	特別支援学級	合計	備考
20	(4) 137	(4) 132	(4) 127	(12) 396	(2) 6	(14) 402	普通学級数12、特別支援学級数2 H20.5.1現在、学校基本調査
21	(4) 141	(4) 138	(4) 131	(12) 410	(2) 6	(14) 416	普通学級数12、特別支援学級数2 H21.5.1現在、学校基本調査
22	(4) 136	(4) 141	(4) 138	(12) 415	(2) 6	(14) 421	普通学級数12 特別支援学級数2
23	(4) 127	(4) 136	(4) 141	(12) 404	(2) 6	(14) 410	普通学級数12 特別支援学級数2
24	(4) 125	(4) 128	(4) 137	(12) 390	(2) 6	(14) 396	普通学級数12 特別支援学級数2
25	(3) 110	(4) 125	(4) 128	(11) 363	(2) 6	(13) 369	普通学級数11 特別支援学級数2
26	(3) 114	(3) 111	(4) 125	(10) 350	(2) 6	(12) 356	普通学級数10 特別支援学級数2
27	(3) 117	(3) 114	(3) 111	(9) 342	(2) 6	(11) 348	普通学級数9 特別支援学級数2

平成21年度までは実数, 平成22年度以降は推計値となります。

北部地域

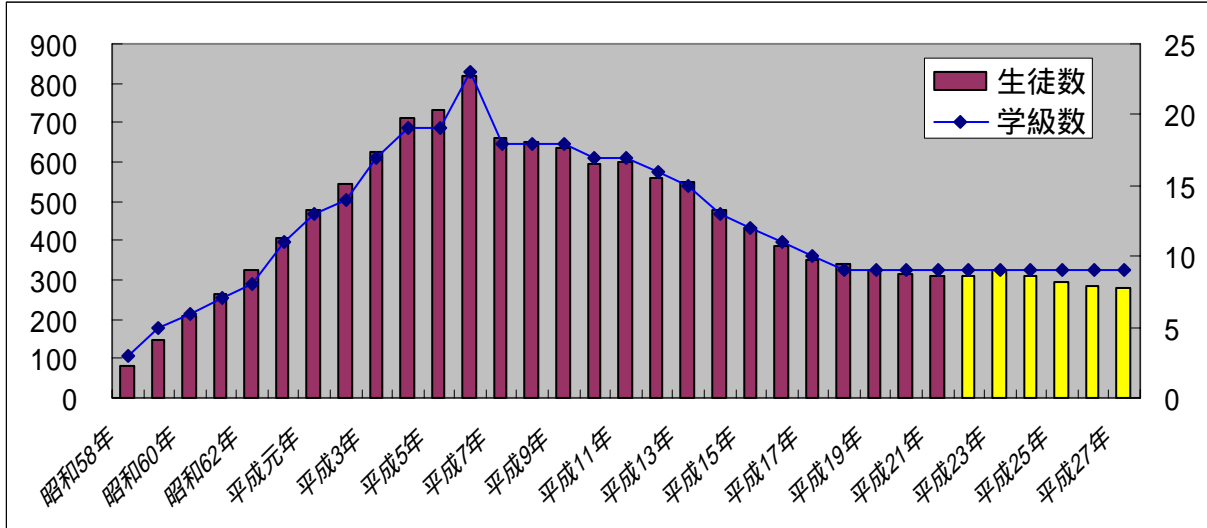
(4) 長山中学校区

昭和58年4月、竜ヶ崎ニュータウン北竜台地区の宅地開発に対応するため、長山中学校が新設されました。新設当時の生徒数は、約80人（普通学級数3）でしたが、平成8年度には、820人（普通学級数23）となりました。この生徒数の増加傾向に対応するため、平成7年4月、長山中学校の分離校として中根台中学校を新設、これにより、長山中学校の区域の一部（久保台小学校の学区、小柴2丁目、3丁目及び一部を除く平台）が中根台中学校の区域となりました。平成7年度の生徒数は、約660人（普通学級数18）でしたが、それ以降は減少傾向に転じ平成21年度には約310人（普通学級数9）となっています。生徒数は、今後も徐々に減少していくものと考えられます。

ピーク時の児童数等 (上段：児童数 下段：学級数)		平成21年度	ピーク時との比較
平成7年度	662	312	47.1%
	18	9	50.0%

ピーク時の児童数等は、分離校（中根台中学校）新設後の最大児童数。学級数は、普通学級数を記載。

【昭和50年度以降の児童数の推移と将来推計】



各年5月1日現在の生徒数。平成21年度までは実数，平成22年度以降は推計値となる。学級数は、学校規模の検討のため普通学級数を記載。

平成7年4月、中根台中学校が開校。長山中学校の学区であった平台（1丁目12番地から16番地を除く。）、小柴1丁目7番地から10番地、小柴2丁目、3丁目、中根台、久保台等が中根台中学校の学区となる。

通学区域は、松葉小学校の学区及び長山小学校の学区となっています。また、長山中学校から最も遠い小柴4丁目地区からの通学距離は、約2.3kmとなっています。

平成20年度以降の学級数及び生徒数

上段の()内は学級数, 下段は生徒数。

学校名

長山中学校

年度/学年	1学年	2学年	3学年	普通学級の計	特別支援学級	合計	備考
20	(3) 89	(3) 104	(3) 107	(9) 300	(2) 13	(11) 313	普通学級数9、特別支援学級数2 H20.5.1現在、学校基本調査
21	(3) 112	(3) 87	(3) 105	(9) 304	(2) 8	(11) 312	普通学級数9、特別支援学級数2 H21.5.1現在、学校基本調査
22	(3) 105	(3) 111	(3) 86	(9) 302	(2) 8	(11) 310	普通学級数9 特別支援学級数2
23	(3) 101	(3) 104	(3) 110	(9) 315	(2) 8	(11) 323	普通学級数9 特別支援学級数2
24	(3) 98	(3) 100	(3) 104	(9) 302	(2) 8	(11) 310	普通学級数9 特別支援学級数2
25	(3) 89	(3) 97	(3) 100	(9) 286	(2) 8	(11) 294	普通学級数9、 特別支援学級数2
26	(3) 92	(3) 89	(3) 97	(9) 278	(2) 8	(11) 286	普通学級数9 特別支援学級数2
27	(3) 92	(3) 92	(3) 88	(9) 272	(2) 8	(11) 280	普通学級数9 特別支援学級数2

平成21年度までは実数, 平成22年度以降は推計値となります。

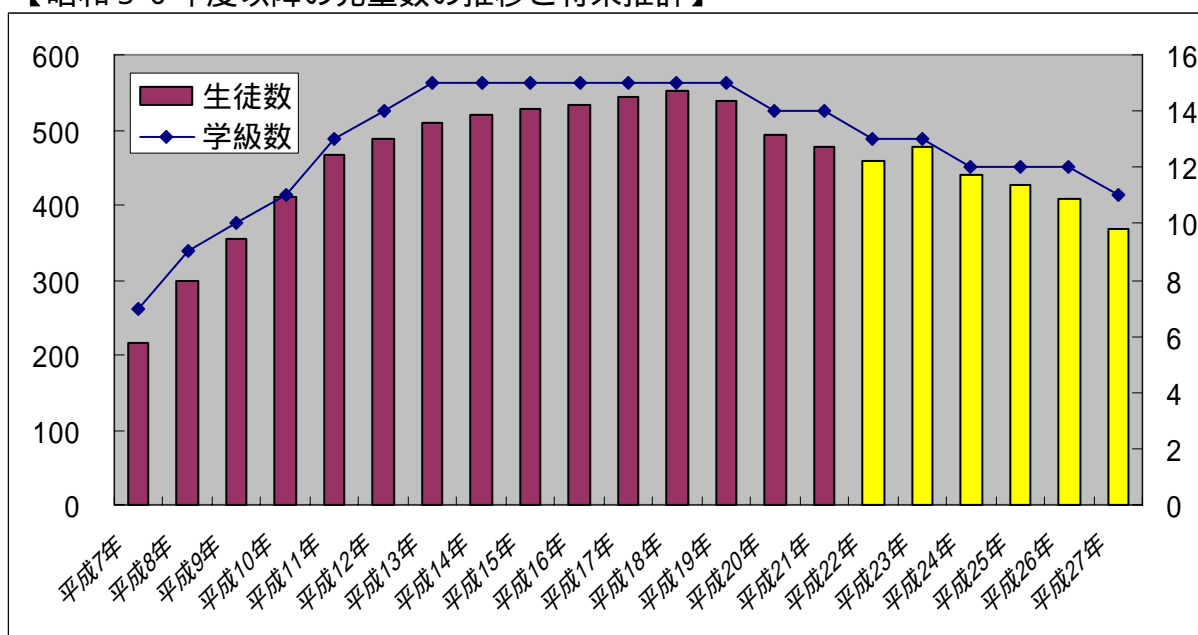
(5) 中根台中学校区

平成7年4月、長山中学校の分離校として中根台中学校が新設されました。新設当時の生徒数は、約220人(普通学級数7)でしたが、それ以降は、平成18年度の約550人(普通学級数15)をピークに減少傾向に転じ、平成21年度には、約480人(普通学級数14)となっています。今後の生徒数も長山中学校と同様に徐々に減少していくものと考えられます。

ピーク時の児童数等 (上段：児童数 下段：学級数)		平成21年度	ピーク時との比較
平成18年度	552	477	86.4%
	15	14	93.3%

ピーク時の児童数等は、新設時(平成7年度)以降の最大児童数。学級数は、普通学級数を記載。

【昭和50年度以降の児童数の推移と将来推計】



各年5月1日現在の児童数。平成21年度までは実数、平成22年度以降は推計値となる。学級数は、学校規模の検討のため普通学級数を記載。

平成11年4月、愛宕中学校の学区であった別所町が中根台中学校の学区となる。

通学区域は、久保台小学校の学区及び馴馬台小学校の学区(馴馬町地区等を除く。)となっていますが、愛宕中学校が指定校となっている馴馬町地区の児童のほとんどは、指定校変更により中根台中学校へ進学しています。また、毎年、10名以上の児童が私立中学校や県立中学校に進学しています。中根台中学校から最も遠い馴馬町南地区(竜ヶ崎自動車教習所付近)からの通学距離は、約2.4kmとなっています。

平成20年度以降の学級数及び生徒数

上段の()内は学級数, 下段は生徒数。

学校名 中根台中学校

年度/学年	1学年	2学年	3学年	普通学級の計	特別支援学級	合計	備考
20	(4) 130	(5) 168	(5) 192	(14) 490	(1) 3	(15) 493	普通学級数14、特別支援学級数1 H20.5.1現在、学校基本調査
21	(5) 176	(4) 132	(5) 167	(14) 475	(1) 2	(15) 477	普通学級数14、特別支援学級数1 H21.5.1現在、学校基本調査
22	(4) 147	(5) 177	(4) 133	(13) 457	(1) 2	(14) 459	普通学級数13 特別支援学級数1
23	(4) 147	(4) 149	(5) 179	(13) 475	(1) 2	(14) 477	普通学級数13 特別支援学級数1
24	(4) 140	(4) 149	(4) 150	(12) 439	(1) 2	(13) 441	普通学級数12 特別支援学級数1
25	(4) 132	(4) 142	(4) 150	(12) 424	(1) 2	(13) 426	普通学級数12 特別支援学級数1
26	(4) 129	(4) 133	(4) 144	(12) 406	(1) 2	(13) 408	普通学級数12 特別支援学級数1
27	(3) 101	(4) 131	(4) 135	(11) 367	(1) 2	(12) 369	普通学級数11 特別支援学級数1

平成21年度までは実数, 平成22年度以降は推計値となります。

東部地域

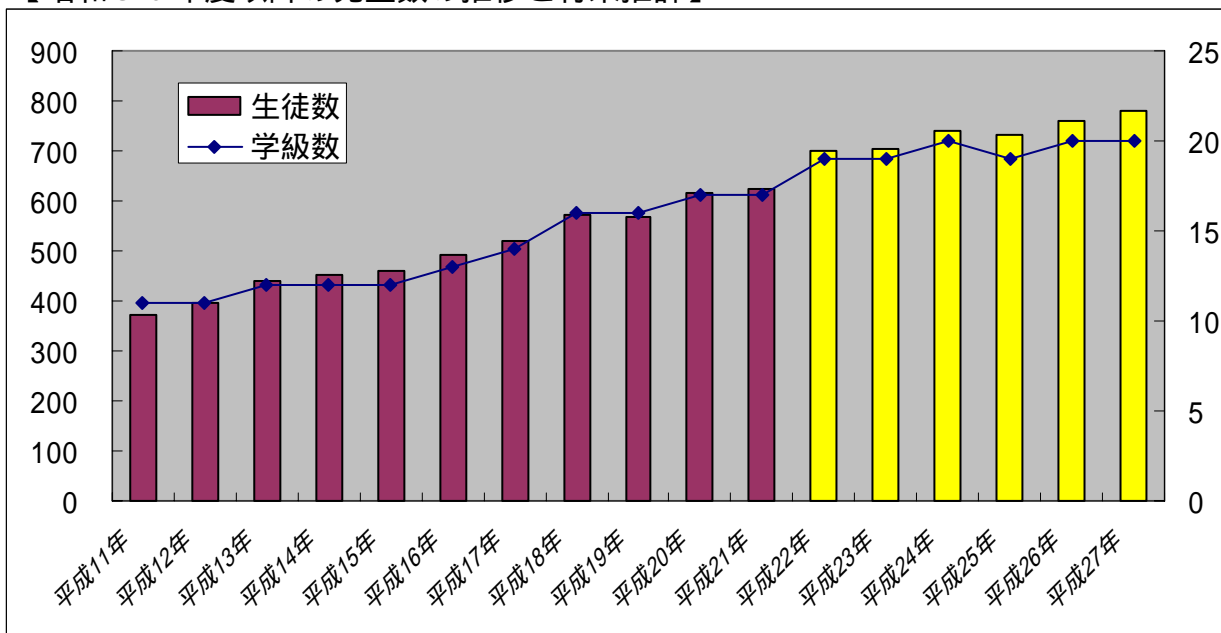
(6) 城ノ内中学校区

竜ヶ崎ニュータウン龍ヶ岡地区の宅地開発に対応するため、平成11年4月、城ノ内中学校が新設されました。平成11年度の生徒数は、約370人（普通学級数11）でしたが、平成21年度には、約620人（普通学級数17）となっています。生徒数は、今後も徐々に増加していくものと考えられます。

ピーク時の児童数等 (上段：児童数 下段：学級数)		平成21年度	ピーク時との比較
平成21年度	624	同左	-
	17		-

ピーク時の児童数等は、新設時（平成11年度）以降の最大児童数。ま学級数は、普通学級数を記載。

【昭和50年度以降の児童数の推移と将来推計】



各年5月1日現在の児童数。平成21年度までは実数、平成22年度以降は推計値となる。学級数は、学校規模の検討のため普通学級数を記載。

通学区域は、八原小学校の学区、城ノ内小学校の学区及び長戸小学校の学区となっています。また、通学距離は、コミュニティ・バス板橋北停留所付近（板橋公民館経由）からは、約5.8km、コミュニティ・バス大塚停留所付近（工業団地内経由）からは、約6.2kmで最も長くなっています。

平成20年度以降の学級数及び生徒数

上段の()内は学級数, 下段は生徒数。

学校名

城ノ内中学校

年度/学年	1学年	2学年	3学年	普通学級の計	特別支援学級	合計	備 考
20	(6) 226	(5) 180	(6) 206	(17) 612	(2) 4	(19) 616	普通学級数17、特別支援学級数2 H20.5.1現在、学校基本調査
21	(6) 212	(6) 228	(5) 181	(17) 621	(2) 3	(19) 624	普通学級数17、特別支援学級数2 H21.5.1現在、学校基本調査
22	(7) 245	(6) 219	(6) 235	(19) 699	(2) 3	(21) 702	普通学級数19 特別支援学級数2
23	(6) 238	(7) 245	(6) 219	(19) 702	(2) 3	(21) 705	普通学級数19 特別支援学級数2
24	(7) 253	(6) 238	(7) 245	(20) 736	(2) 3	(22) 739	普通学級数20 特別支援学級数2
25	(6) 237	(7) 253	(6) 238	(19) 728	(2) 3	(21) 731	普通学級数19 特別支援学級数2
26	(7) 268	(6) 237	(7) 253	(20) 758	(2) 3	(22) 761	普通学級数20 特別支援学級数2
27	(7) 274	(7) 268	(6) 237	(20) 779	(2) 3	(22) 782	普通学級数20 特別支援学級数2

平成21年度までは実数, 平成22年度以降は推計値となります。

生徒・学級数一覧（平成21年5月1日現在）

（中学校）

学校名	1 年				2 年				3 年				合 計				
	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	計	学級数	男	女	児童数	学級数	
（南部地域）																	
愛宕中	53	49	102	3	63	52	115	3	58	57	115	3	174	158	332	(5)	9 (2)
城南中	46	44	90	3	38	38	76	2	57	46	103	3	141	128	269	(4)	8 (2)
（西部地域）																	
城西中	68	74	142	4	73	67	140	4	77	57	134	4	218	198	416	(6)	12 (2)
（北部地域）																	
長山中	48	64	112	3	46	46	92	3	53	55	108	3	147	165	312	(8)	9 (2)
中根台中	81	95	176	5	79	54	133	4	80	88	168	5	240	237	477	(2)	14 (1)
（東部地域）																	
城ノ内中	112	101	213	6	124	105	229	6	96	86	182	5	332	292	624	(3)	17 (2)
計	408	427	835	24	423	362	785	22	421	389	810	23	1,252	1,178	2,430	(28)	69 (11)

（ ）内の生徒数は，特別支援学級の内数。

（ ）内の学級数は，特別支援学級の外数。

4 学校の適正規模化の必要性

(1) 小規模校のメリットとデメリット(児童生徒)

		メリット	デメリット
龍ヶ崎市 内 学 校	児童 生 徒	一人一人が責任をもって活動に取り組める場面が多くなり、愛校心が高まる。	男女の人数のバランスが悪くなる場合がある。
		児童生徒一人当たりの利用可能な施設・設備・教材が多い。	体育のゲームなどを成立させるためには、2学年が一緒になって行うなどの工夫が必要。
		教材や教具を一人一人が活用することができる。	固定した人間関係では、児童生徒相互で向上していこうとする状況ができていく。
		異年齢集団による活動がやりやすい。	多様なグループ分けができない。
		一人一人の子どもが活躍する場面が多くなり、力を発揮しやすい。	同学年での組別対抗競争などを取り入れることができない。
		技能を伴う学習においては、より多い回数をこなし身につけられる。	運動会など集団活動の活性化に欠ける。
			同じ地区に住む子どもが少ないため、登下校が心配である。
			縦割り活動などが多くなり、高学年の負担が増える。
	人 間 関 係 や 生 活 環 境		学校図書・教材教具の種類が少ない。
		全体でまとまる機会が多くなり、一体感が強くなる。	問題によっては、集団のまとまりの修復が難しい。
		上級生は、下級生を思いやり、優しく接する機会が多くなり、思いやりの心が育つ。	固定的な人間関係により、リーダーは固定化される。
		異学年交流を行う機会が増え、豊かな心が育成される。	大きな集団の生活経験が少ないため、不適應を起こすことがある。
		異学年との交流がしやすく、横だけの人間関係だけでなく、縦の人間関係を体験できる。	教師に依存する傾向が強くなりやすく、主体性や社会性が育ちにくい傾向にある。
		単学級規模の学校だと、6年間兄弟姉妹のような人間関係で過ごせ、豊かな人間性が育成されやすい。	大集団内での身の処し方について、経験が少ないことによって、上級学校での適応に問題を生ずる場合がある。
		学校生活への参加意識が高くなり、協力し合う、進んで活動する機会が増える。	人間関係が固定化しやすく、悪くなった場合、改善が非常に難しい。
			クラス替えができない。
	部活動等の数が限定される		
	多様な人間関係に触れることが難しく、偏りがちである。		
	異学年交流の機会が増え、高学年負担が増える。		

(2) 小規模校のメリットとデメリット(教員)

		メリット	デメリット
龍ヶ崎市 内学校	教育 効果 や 学 習 環 境	全校児童生徒の様子がよく分かる。	小学校では、単学級だと全教科の教材研究(授業準備)を行うのが難しい。
		個に応じた目標達成のための指導がしやすくなる。	中学校では教員定数上、教科教員の不足が生じ、専門教育が十分行えなくなる。
		一人で多くの仕事を任されるので、若いうちにたくさんの仕事を覚えることができる。	ある種の競争的な効果を期待する指導ができず、自己克服的になってしまう。
		全職員が全校児童生徒の名前が分かり、指導に関わることができる。	校務分掌が多く、業務処理に追われる。
		評価活動において見取り・評価場面が増え、深まりが出る。	比較場面が少ないことから、評価規準を常にしっかりと押さえる必要がある。
		在籍人数によるが、事務処理にかかる時間が短い。	同学年担当の教師の情報交換ができず、深まりに欠けたり、独りよがりの判断・行動に陥ることがある。
			比較検討する場面において、多様な意見が少なく深まりを持たせることができない。
	人間 関係 や 生 活 環 境	自学級だけではなく、他学年、全校児童生徒との関係を深めることができやすい。	同学年の教員がいないため、生活指導も担任独自の判断で行う傾向にある。
			多様な人間関係の体験の場が少なくなりやすく、主体性や社会性が育ちにくい傾向にある。
			保護者の行事・授業等への協力依頼が限られてしまう。
			児童生徒間で解決させていく指導などが難しく、狭いものになりがちである。
			教師と児童生徒との関係が崩れると修復が難しい。
	学 校 経 営 や 学 校 運 営	全体研修で教師一人一人の考えを引き出しやすく、内容も徹底できる。	小学校では、同学年に同僚がいないため、教材研究の深まりや指導法の改善が難しい。
		教員評価等の面談が容易にでき、客観的な評価が可能となる。	校務分掌の分担が多くなり、それに伴い出張や提出物が多くなる。
		児童の実態に応じた特色ある学校経営がしやすい。	問題が生じたときには、管理職の関わりがより多くなる。
		一人一人に課せられる業務が多くなり、人材育成の機会が増える。	代替者がいないため研修会等の参加の時には、教務主任や教頭、時には校長も填補に出ることがある。
		人的管理がより具体的に展開できる。	複数学級であれば若手とベテランの組み合わせ等が可能で、教員の指導力向上が図られる。学年ブロックで組み合わせ
			中学校の教科担当が1人で新規採用の場合、教科運営が難しい。
			考え方の多様性がなく、会議や研修の向上が図りにくい。
			教員の学びあいの場が持ちにくく創意工夫に限りがある。
	物的管理におけるチェックが弱くなる。		

(3) 小規模校のメリットとデメリット(保護者)

		メリット	デメリット	
龍 ヶ 崎 市 内 学 校	保 護 者	学 習 環 境	身近に保護者の状況を把握できる。	学校行事，環境整備等にPTAや地域住民の協力を得る機会が増える。
			PTAや関係団体との連携を図る機会が増える。	参加協力する保護者と，参加しない保護者の差が見られ，保護者の間で問題が生じる。
				PTAや関係団体との連携を図る機会が増え，負担が増大する。
			地域と保護者が結びついているため，地域の協力を得やすい。	関係の悪い保護者同士の問題が学校に持ち込まれることが多い。
			教師と保護者のコミュニケーションがとりやすい。	
			古くからの人間関係で役員が決まりやすい。	
	学 校 運 営	保護者一人一人への対応がきめ細かくできるため，保護者の信頼も厚くなり，学校運営がしやすい。	減少するため，簡略化していく必要がある。	
		地域の特色を生かした活動がしやすい。	PTA会費の値上げも必要である。	
		学校行事と地域との連携がとりやすい	PTAの会員が少ないため各種役員の選出に難しさがある。	
			登下校の安全指導など協力を得る機会が多くなる。	
			学校評価において幅広く意見を集約することが難しくなる。	
			参加，不参加の差が明確になる。	

5 龍ヶ崎市立小中学校施設の現状

当市では、昭和50年代から60年代にかけて龍ヶ崎ニュータウン等の市街地開発に伴う児童生徒数の急増に対応するため小中学校の新設や校舎の増築を行ってきました。現在も龍ヶ岡地区にある八原小学校、城ノ内小学校及び城ノ内中学校では、児童生徒数が逡増している状況にあるため校舎の増築が必要になると考えられますが、小中学校全体では、築25年以上を経過した施設の割合が約45%となっており、こうした施設では、今後大規模な改修等を行う必要が生じると考えられます。なお、耐震補強については、耐震診断により補強が必要と認められたすべての施設で平成14年度までに工事を完了しています。

(小学校)

平成21年10月1日現在

	学校名	校地面積 (㎡)	校舎		最大普通 教室数	体育館		武道場		プール・付属棟		備 考
			建築年	面積(㎡)		建築年	面積(㎡)	建築年	面積(㎡)	建築年	面積(㎡)	
1	龍ヶ崎小	33,736	S52~H元	6,191	28	S55	1,025			H10	98	
2	馴柴小	17,184	H19	6,828	26	H20	1,372			S57	95	
3	八原小	30,718	S55~H16	6,092	32	H11	1,115			S59	69	
4	長戸小	11,430	S41~S60	2,154	7	S51	548			S61	81	
5	大宮小	15,396	S47~H11	2,589	9	S53	610			S60	94	今後老朽化に伴う大規模な改修が必要になると考えられます。
6	川原代小	11,370	S45~S57	3,057	13	S52	567			S61	109	
7	北文間小	12,563	S46~ H元	2,967	11	S53	620			S60	90	今後老朽化に伴う大規模な改修が必要になると考えられます。
8	龍ヶ崎西	19,982	S56	4,462	16	S57	739			S57	21	〃
9	松葉小	26,500	S56~S59	5,346	19	S56	847			S56	97	〃
10	長山小	23,600	S63	4,586	17	S63	1,140			S63	102	〃
11	馴馬台小	26,500	H4	4,651	18	H4	1,094			H4	39	
12	久保台小	26,497	H7	4,676	19	H7	1,107			H7	104	
13	城ノ内小	27,800	H11	4,300	16	H11	1,093			H11	131	

(中学校)

1	愛宕中	37,110	H2	6,596	21	H7	2,595	H7	体育館内 (452)	H7	176	
2	城南中	29,116	H4	6,471	21	H8	2,988	H8	体育館内 (599)	H6	125	
3	長山中	29,976	S57~ H2	5,717	24	S57	1,122	S63	499	S57	46	今後老朽化に伴う大規模な改修が必要になると考えられます。
4	城西中	38,147	S58~H2	5,098	16	S58	1,078	S62	452	S59	37	〃
5	中根台中	30,970	H6	5,117	15	H6	1,418	H6	540	H6	30	
6	城ノ内中	29,798	H10	5,210	19	H10	2,918	H10	体育館内 (628)	H10	145	

武道場面積は、弓道場を除く。 最大普通教室数には、特別支援学級及び学童保育ルーム、その他転用可能教室を含む。